

大正区まち講座

第2回

資 料

『大正区の歴史』

平成18年7月22日(土)

1. 古代の難波	...	P.2-1
2. 平安時代の難波	...	P.2-2
3. 鎌倉時代と室町時代の難波	...	P.2-3
4. 大坂本願寺	...	P.2-3
5. 豊臣時代	...	P.2-3
6. 徳川時代		
① 勘助島	...	P.2-4
② 木津川	...	P.2-4
③ 朝鮮通信使	...	P.2-4
④ 河口風景	...	P.2-5
⑤ 幕末時期	...	P.2-5
⑥ 安政大地震	...	P.2-5
⑦ 新田開発	...	P.2-5
7. 明治時代以降		
① 行政区画	...	P.2-6
② 人口と産業の発展	...	P.2-6
③ 戦前の港湾修築事業	...	P.2-7
④ 戦災	...	P.2-7
⑤ 戦後の港湾整備事業	...	P.2-7
⑥ 高潮対策事業	...	P.2-8
⑦ 土地区画整理事業等	...	P.2-8
⑧ 小学校の変遷	...	P.2-8
◎ 大正区年表・地図	...	P.2-9~

「大正区の歴史」

大正区の歴史と言っても、大阪市への編入は明治30年(1897年)、区としては昭和7年(1932年)に港区から分離独立した区である。しかし、大正区の土地は難波潟に位置し、往古より日本の歴史の表舞台に極めて近く、難波に集まる人や物資はその当時未だ海中にあった大正区の頭上を頻繁に動いていた。

その当時の話から始めよう。

1. 古代の難波

上町台地(標高25m)は生駒山(標高642m)とは大きさこそ違うもののよく似た山形を持つ。ともに両山系が西側に断層を伴う隆起帯であり、その東西は沈降帯となっている。つまり上町台地の東は河内平野であり、西側が大阪湾となっている。この中途半端ともいえる小丘陵地形こそが大阪の今日の地位を生み出している。河内平野には淀川と大和川(江戸時代までは大阪城の東あたりが河口)の2大河川が流れ込み、港機能と肥沃なデルタ地帯を形成して行った。1万5000年前からの縄文海進と呼ばれる縄文早期・前期には河内湾であったものが、3000年前には河内潟と呼ばれる地形となり、1500年前には河内湖となっていた。これは海面の低下と土砂の堆積が進んだため、上町台地の存在が極めて大きい。最初に大阪市民となったであろう人の住み始めた時期は明確ではないが、森之宮遺跡に人骨が見られる。

日本書紀によれば仁徳11年(5世紀)には「難波の堀江」の開削が記されている。「(高津の)宮の北の郊原を掘りて、南の水を引きて西の海に入る。因りてその水を号けて堀江といふ。」これは現在の旧淀川・大川だと考えられている。その後この大川が淀川本流となって下流に木津川などが出来てくる。

西暦538年(552年とも)に伝来した仏教を巡って蘇我氏と物部氏が確執を深め、古来より外来文化の受け入れ地であった難波の堀江に物部氏が仏像を投げ捨てたとされる。(後にその仏像が長野善光寺の本尊になった話は有名)その後物部守屋を滅ぼした後、聖徳太子によって四天王寺が創建されたのは西暦593年のことだった。(当初は玉造に造られたが6年後に現在地に移設された。)

古代より難波には多くの「宮」が存在した。仁徳天皇の「高津宮」、欽明天皇の「祝津宮」、孝徳天皇の「難波長柄豊碕宮」、天武、文武、聖武天皇などの「難波宮」などがあつた。ところで天皇の即位の後の儀式として「八十島祭り」があつた。(琴の演奏の下で新天皇の衣装を入れた箱を振り霊力を付与した)記録では嘉祥3年(850年)から元仁元年(1224年)まで22回開催されたが、もともと河内王朝以来の儀式であるらしい。古は天皇の直接の参加の下で行われていたようであり、記録では難波津の「熊河尻」で行われたとされ、その位置は不明であるが、現在の大阪城のところにあつた生国魂神社が関与していたらしい。長暦元年(1037年)以降は住吉神社の近くの「代家浜」で行われた。そのほか、伊勢神宮の斎王が京に帰る際は大山崎の河陽宮からわざわざ難波津の3箇所(三津浜下方、三津浜、安曇口)に参らなければならなかったという。

万葉集について言えば、大正区に関係する歌として「鶴町」と「船町」の由来となった田辺福麻呂の「潮干ればあしべに騒ぐあし鶴の妻呼ぶ声に宮もとどろに」と「あり通う難波の宮は海近みあまおとめらが乗れる船見ゆ」があるが、もう一つ興味深い歌がある。万葉集巻2-228「妹が名は千代に流れむ姫島の子松がうれに苔むすまでに」(河辺宮人が難波潟の姫島の松原で詠んだ)。

この歌の舞台の「姫島」は、所在地不明とされ、西淀川区の姫島神社付近をあてている説があるが、その当時の海岸線や難波宮からの距離から見て疑問である。「行基年譜」にある「比売島」が西成郡津守村にあると明記されていることや、「浪花往古図」では、「姫島」が「江小島」「くじょう島」の南に

表示され、また区内の専称寺の山号が「姫島山」とされるなど当区との関係も浅からずあると言える。(なおこの歌を本歌取りして古今集の「賀の歌」の「我が君は千代にましませさざれ石の巖となりて苔の生すまで」が生まれ、のち和漢朗詠集に採用され、さらに薩摩藩琵琶歌に取り入れられ、明治になって「君が代」となったと言われている。)

歌の話としては小野小町のおじいさんの参議小野篁の「わたの原八十島かけてこぎ出でぬと人には告げよ海人のつり舟」(小倉百人一首)は大正区あたりの 1150 年前の風景を彷彿とさせてくれるものではないだろうか。

万葉集も含めて難波を詠んだ歌は数多い。

「難波門を漕ぎ出でて見れば神さぶる生駒高嶺に雲そたなびく」	防人の歌
「八十国は難波に集ひ舟飾り我がせむ日ろを見も人もがも」	防人の歌
「堀江漕ぐ伊豆手の舟の梶つくめ音しば立ちぬ水脈速みかも」	大伴家持
「いざ子ども早く日本へ大伴の三津の浜松待ち恋ひぬらむ」	山上憶良
「大伴の御津の松原かき掃きてわれ立ち待たむ早帰りませ」	山上憶良
「難波津に咲くやこの花冬ごもり今を春べと咲くやこの花」	古今集序・王仁
「津の国の難波の春は夢なれやあしの枯葉に風わたるなり」	新古今集・西行

2. 平安時代の難波

長岡京への遷都に際しては難波宮の資材を運ぶとともに、延暦 4 年(785 年)には神崎川(三国川)と淀川を結ぶ水路が開削され、瀬戸内から京へはこの水路を利用することになって、一層難波の地位低下を招いた。(江口(東淀川)や川尻(尼崎)近くの加島や神崎には遊女もいて、江口には道長や頼通、西行なども訪れた。)

延暦 12 年には攝津職が廃止され、摂津国が置かれた。古代に比べて地味な時代と言える。しかし、荘園は次々と開発され、西成郡(中島郡とも言う)は広大な面積を擁するようになった。

瀬戸内海からも神崎川を經由して今の天満橋あたりの「渡辺津」に物資が集まり、摂津の国府も津の近くに置かれた。渡辺津は熊野詣の陸路の出発点にもなった。摂津多田源氏の「渡辺党」が活躍し、大江御厨の惣官も兼ねた。源平の時代に活躍した源頼政も渡辺党であり、熊野水軍と並んで活躍したのも渡辺党だった。

また、住吉神社が次第に社格を上げた。「八十祭り」を執り行うとともに、航海守護とともに天候祈願の神の役割や和歌の神の役割も行うようになった。これには神主の津守氏の果たした役割が大きい。

一方で、四天王寺信仰(太子信仰)が盛んになり、熊野詣の途中参詣も多かった。さらに浄土に往生するために夕陽を拝むことが盛んになり、貴族の藤原家隆も「契りあれば難波の里にやどりきて波の入日を拝みつるかな」と辞世の歌を残した。

3. 鎌倉時代と室町時代の難波

摂津の国では守護は承久の乱(1221年)以降しか任命されず、地頭は貴族や寺の反対で市内域では置かれなかった。渡辺の惣官職は渡辺氏や一族の遠藤氏が占めた。

四天王寺は当初東寺系(真言密教)の僧が別当となったが、後に天台系に代わった。しかし山門(延暦寺)と寺門(園城寺)間での抗争が激しかった。愚管抄で有名な慈円も別当職のまま没している。別当職を支える執行職は渡辺党の渡辺氏と遠藤氏で争った。有名な忍性も別当職につき、石鳥居を築造し、悲田院も再興した。また、四天王寺と住吉神社が阿倍野の領有を巡り4度にわたり抗争した。

鎌倉末期には四天王寺に立てこもった六波羅軍と渡辺党を含む楠木正成が戦った。南北朝時代は渡辺家や住吉神社の津守家および四天王寺も南朝方だった。渡辺党の渡辺照は後醍醐天皇から難波荘の地頭職に任命された。応安2年(1369年)には難波荘と木津浦が境界争いしている。南北朝の関係などで摂津は戦略的に重要なため、守護は郡単位で任命が行われ、西成郡は赤松氏や畠山氏および細川氏が領有したが、南朝が支配する時期もあり、変動が著しかった。(西成郡は中島郡一北・中・南と呼ばれ、東成、住吉、百済郡は欠郡と呼ばれるようになった。)

応仁の乱では大内政弘(西軍)が中島郡を支配した。その後細川氏の内部抗争で備前の浦上氏や阿波の三好氏も絡んで木津、今宮、天王寺、野田、福島、勝間が戦場になった。最終的には三好長慶が勝利し、永禄7年(1564年)までの15年間は平和が保たれた。

4. 大坂本願寺

浄土真宗の蓮如が明応5年(1496年)に東成郡生玉荘内鳴森に御坊を建立した。その時の書状の中の「大坂」の地名が歴史上の初見である。当時本願寺の本拠は山科にあったが、現在の大坂城の地に新たな拠点を設けたのは炯眼であった。天文2年(1533年)には大坂本願寺となり、周囲は堀がめぐられ城郭のような寺内町であったという。元亀元年(1570年)に織田信長は一向宗の総本山の本願寺の退去を宗主顕如に求めたが、これを本願寺が断った。これから天正8年(1580年)の本願寺退去までいわゆる石山合戦が続いた。その中で天正4年(1576年)毛利水軍を主力とする一向宗門徒が木津川河口を守る織田方の水軍を撃破し、本願寺への兵糧米の搬入を果たしている。しかし信長は2年後九鬼嘉隆らに命じて鉄板張りの大型軍船「大安宅船」(6艘、一艘につき大砲3門、兵員300人)を建造させ、海上封鎖を行い、木津川河口で毛利水軍600艘を壊滅させ、この結果本願寺の大坂退去につながった。

この木津川河口の海戦の場所が現在の大正区の場所であったことが推定される。

5. 豊臣時代

天正11年(1583年)に大坂城が建設され始め、本丸は天正13年、惣構堀は慶長元年(1596年)完成。天守閣は5層であった。惣構堀は、西は東横堀川、北は大川、南は空堀、東は平野川であった。

元和元年(1615年)大坂夏の陣により豊臣家は滅亡。現在の大坂城は豊臣のそれを盛り土で完全に覆い、新たに堀を作ったもので徳川秀忠の命により幕府の威信をかけて作られ、秀吉のそれよりも規模も凌駕する。船場の町もこのときに造られた。

大正区史や西成郡史によれば慶長15年(1610年)中村(木津)勘助が木津川尻姫島の豊臣家の軍船係船所建設に従事し、さらに堤防を築いて新田を開発したので豊臣家より「勘助島」の名を与えられたとあ

る。(ただし、旧市史によれば開発時期は上の八坂神社の勧請時期から正保4年(1647年)説を採っているが、新市史では西成郡史の紹介とともに、元和元年(1615年)以降、船場の開発が進み、それにあわせ元和5年(1619年)頃の勘助島東側の三軒屋地子(三軒家町)の成立も記している。また当時の絵図も紹介している。)

大阪濫觴書(元禄12年刊)では元和5年(1619年)には上難波村や西高津村、九条村と並んで「勘助島」にも町家が立ち並んでいたことが判る。また慶長10年(1605年)の摂津国絵図にも勘助島と見られる記述がある。延宝3年(1675年)刊の大坂案内書である「蘆分船」に言う「三軒屋」は勘助島のことである。

また、勘助は寛永7年(1630年)には木津川を浚渫し、幕府から入津料の特権を得ている。

6. 徳川時代

①勘助島

勘助島は江戸時代になっても一層重要性を増した。船奉行である「大坂船手」は当初1人(小浜民部光隆が元和6年(1620年)に初任)で屋敷は九条島の北端にあったが、寛文5年(1665年)2人となり、その1人(大番組頭高林直重)は勘助島に屋敷を構え、船番所も勘助島に設けられた。元禄年間には番所の西側に「御船蔵」が設けられた。その後安治川と同じように宝永5年(1708年)に「木津川口遠見番所」が設けられ、出入り船舶の便宜と検査を受け持ち幕末まで続いた。この間、河村瑞賢による九条島開削工事(1684年)や難波島開削工事(1699年)などの河川整備が行われ、天下の台所としての大坂の基盤整備となった。また貞享元年(1684年)には大川の改修による替地が当地に与えられ船津町、川本町、白井町となり大坂三郷の天満組に属した。今の三軒家東1丁目に当る。

②木津川

大阪歴史博物館所蔵の華麗な「川口遊里図屏風」はこの当時の三軒家の繁栄ぶりを見事に表しているが、明暦3年(1657年)に幕府の集娼政策で新町に統合された。しかし木津川(当初は船場表川と呼ばれた)が北前船などの玄関口として物資の大動脈であったことは徳川時代を通じて変わらず、その水路確保のため「川浚え」を幾度となく実施した。(宝永、享保、天明、天保など)

木津川は特に北前船や渡海船を中心とした川筋で、上荷船の浜が24あったとされ、そのうち大正区には勘助島上の浜、同中の浜、同下の浜、今木浜、三軒家浜、難波島浜、瀬の浜、落合浜などがあったが、勘助島には薩摩や日向の船が、難波島には北前船が着船していた記録がある。木津川の様子はシーボルトの「江戸参府紀行」にも紹介されている。

③朝鮮通信使

朝鮮通信使や琉球使節も木津川などを遡っていることが数は少ないものの難波島や勘助島などの名称が記録されており明らかである。朝鮮通信使は將軍の代替わりのときの慶賀使で、前半は伝法口を利用してしたが、後半は木津川口を利用するようになり、特に尻無川河口に大船を停泊させ、川御座船に乗り換え、途中本願寺を宿舎とし、京都まで船で行ったようで、群集が堤防を埋め尽くした記録がある。宝暦の通信使の随員(金漢重)の墓が西区九条の竹林寺にあるとともに松島公園の一面に「朝鮮通信使の碑」もある。

④河口風景

木津川(尻無川も含めて)は「鯨(はぜ)つり」で有名(摂津名所図会等)で、落語(「骨つり」)の舞台にもなっている。「櫛(はぜ)」の紅葉で有名だった尻無川や木津川の河口風景と江戸時代の難波の港の絵図が大正区コミュニティ協会前の広場に平成17年末設置された。ところで、嘉永4年(1851年)発行の「浪華の賑ひ」によれば、木津川口を「此所は浪花の津の湊口にして諸国の海舶出入の要津にかかるゆえに、廻舟の便利よからしめんが為、去る天保3年(1832年)・・・870間(1500m余)の石塘(石堤)を築き・・・実に万代不朽にして浪花繁栄の基・・・又此堤は上に数株の松を植えつらねり、故に俗に木津川の千本松という。洋々たる滄海に築出せし松原は彼の名に高き天橋立、三保の松原なども外ならずと覚ゆ」と挿絵入りで紹介されている。

⑤幕末時期

幕末の嘉永7年(1854年)にはロシアのプチャーチン率いるディアナ号が大阪湾へ来航し、安治川口や木津川口は物々しい警備となった。この時尻無川や木津川には紀州藩や郡山藩の兵2600人が集まるとともに、尻無川河口に30艘、木津川河口に43艘の番船を配備した記録がある。

文久3年(1863年)には將軍家茂が大阪湾巡視を行い諸侯に沿岸警備の命令を発している。木津川口は土佐の山内家に、木津川船手番所は美濃の遠山家となっていた。これを遡ること7年前には安治川口や木津川口に砲台を築くための調査命令も出されていた。

⑥安政大地震

嘉永7年(11月27日で改元し安政となる)年は安政の大地震がおき、特に11月5日には地震被害とともに、津波が押し寄せ、大正区だけでなく安治川筋や木津川筋の広範囲な地域が大災害を蒙った。このことは大正橋東詰めの「両川口津浪記」の石碑に詳しい。

⑦新田開発

大正区はある意味では全て新田である。勘助島に始まり千歳新田まで15箇所石高にして、2000石程度である。新田は大坂町人や豪農が幕府から許可を得て開発する「町人請負新田」で、当然幕府領となる。

大正区の中では泉尾新田の北村六右衛門と千島新田や恩加島新田などの岡島嘉平次が有名であるが、特に北村家の御子孫は区内で健在である。

泉尾新田(当初三軒屋浦新田と呼ばれた)の場合を見てみると、泉州踞尾村の豪農北村六右衛門は地元の新田開発も行いながら幾度となく開発の名乗りを上げた結果、元禄15年(1702年)に検地を受けるにいたった。石高703石で江戸時代の大坂湾岸の新田としては規模が大きく、その後の開発もあわせると125町歩の広さがあった。2重の堤防に囲まれ、沖堤は高さ9m、中堤は5.4mで中堤の中は畑、その外は水田で、「井路」と呼ばれる水路が縦横に走っていたという。農家数45戸、会所は南泉尾(三軒家東5丁目付近)にあった。開発許可を受けるにあたっては3年間の年貢免除と千石につき金3500両の上納金を約した。これらの新田は江戸時代を通じて縹渺たる田園地帯のままであった。大正区の新田は泉尾が五箇組にその他の新田は木津川組に属した。

7. 明治時代以降

①行政区画

明治時代当初、行政区画は頻繁に変更された。

大正区の場合、明治元年(1868年)大阪府西成郡、同2年1月には攝津県西成郡、2ヵ月後大阪府、同5年大阪府西成郡第2区2番組、4番組、同8年大阪府第6区2小区、同11年大阪府西成郡、明治22年市制・町村制の施行により、大阪府西成郡三軒家村および川南村の一部(大阪市発足)、明治30年大阪市編入(西区)。

明治33年、町名設定、ほぼ新田名継承。

大正14年、西区から港区として分区。

昭和7年、10月1日港区から分区し、大正区成立。

②人口と産業の発展

明治9年	(1876年)	4,078人	1881年三軒家「船囲い場」
明治22年	(1889年)	6,303人	1883年大阪紡績 1885年藤永田造船所
明治32年	(1899年)	12,920人	1903年泉尾土地設立、原田造船所 1912年千島土地 1914年(~17年)大阪俘虜收容所設置 1915年大正橋架設、大阪セメント、大阪製鐵 1917年クボタ恩加島工場 1918年市電大正橋一木津川運河、大阪木材土地創立 (西区から木材業者集団移転) 1919年大正運河開削開始、この頃難波島に造船所15社、 尻無川北恩加島、船町も多し
大正9年	(1920年)	62,046人	1920年岩崎運河開削、市電鶴町4丁目延伸 1922年市電小林・鶴町開通 1923年中山製鋼所、この頃沖繩県出身者の来区進む
大正14年	(1925年)	81,710人	1925年西区から港区分区。松尾橋梁 1926年片山鉄工所、藤永田船町造船所 1927年日本GM鶴町開業 1929年大阪飛行場(木津川)(日本初の公共用空港)開設
昭和5年	(1930年)	100,933人	1932年(昭和7年)大正区が港区から分区
昭和10年	(1935年)	131,037人	1935年工業生産高市内2位 1936年大船橋(可動橋) 1937年大浪橋
昭和15年	(1940年)	137,931人	1939年中山製鋼所新溶鉱炉

③戦前の港湾修築事業

<第1次> 明治30年(1897年)～昭和4年(1929年)

運河	木津川運河	大2年(1913年)	～大5年	延長 1,832m
	千歳運河	大3年(1914年)		1,909m
	福町堀	大7年(1918年)	～大8年	1,054m
埋立	木津川右岸先端	明31年(1898年)	～明32年	8万4288㎡
	船町	明30年(1897年)	～大15年	93万2446㎡
	鶴町・福町	明38年(1905年)	～大3年	116万0335㎡
	南恩加島・平尾	明42年(1909年)	～大12年	29万4100㎡
防波堤	鶴浜通地先	昭3年(1928年)	～昭4年	延長 455m
	船だまり	同上	同上	4万1250㎡

<第2次>昭4～21 ほぼ港区の中央突堤地区に集中

④戦災

大正区空襲は全7回。

特に3月13日、6月1日、6月15日の空襲による被害が大きかった。

- ・3月13日は難波島、三軒家東、泉尾中央部。
- ・6月1日は船町西部、鶴町、福町、新千歳町、北恩加島。
- ・6月15日は残存部。

殊に3月13日の被災は死者261人、被災者3万5210人、大正区全体の家屋の40%が被災。

昭和19年1月の人口10万5721人のうち疎開2万7006人、被災5万4932人。

終戦時人口9,970人。昭和20年10月は2万8493人。

⑤戦後の港湾整備事業

大正内港化工事・・・尻無川左岸一帯、千歳堀一部拡幅、浚渫して80haの泊地造成、埠頭施設建設、
内国貿易港区整備

大正鋼材埠頭岸壁	水深 9m	昭和 34～37年
第1突堤、第2突堤物揚場	水深 3～4m	昭和 30～44年
大正内港はしけ栈橋	水深 4m	昭和 50年(近年再整備)
上屋建設		昭和 39～47年
貯木場移転		昭和 27～46年

大正運河を中心に製材所、合板工場、貯木場、木材市場があり、業者261社、水面約41万㎡、陸地約41万㎡合計82万㎡で(区域の約1割)昭和27年から住之江区平林へ移転開始、昭和46年移転完了。

⑥高潮対策事業

新田の堤防は堅牢であったが治水事業と工業化の中で堤防が低くされた。

昭和9年9月の室戸台風全域冠水 ⇒ 昭和14年OP3.5m堤防完成

昭和25年9月ジェーン台風ほぼ全域冠水 ⇒ 昭和34年OP4.0m堤防完成

(西大阪総合高潮対策事業)

その後も鶴町、福町や木津川左岸や尻無川右岸で嵩上げ実施

新高潮対策事業・防潮水門の建設

木津川水門、尻無川水門 昭和45年11月完成

水門内OP4.3m 水門外OP6.6m基準

地下水の汲み上げ規制のかかった昭和37年以降は地盤沈下がほぼ収束

⑦土地区画整理事業等(大正区分)

・難波島工区 15ha 昭和23年仮換地指定 昭和36年換地処分公告

・三軒家工区 60ha 昭和26年仮換地指定 昭和62年換地処分公告

・南部工区 431ha 昭和31年仮換地指定 平成6年換地処分公告

合計 506ha (大正区全面積の54%)

住宅地区改良事業(小林、南恩加島、鶴町、泉尾)も昭和39年度以降、主に区画整理事業と合併施行の形で4地区11ha、866戸の住宅を建設した。

<南部工区> 昭和21年都市計画決定

木材業者の移転先としての住之江区の平林地区を含めれば636ha。

全面盛土のため飛び換地方式。盛土量は浚渫送砂土量316万 m^3 一般土砂259万 m^3 合計575万 m^3 である。高さは鶴町地区がOP4.3m、本土地区がOP4.5~6.7m。家屋の移転は北恩加島町から始まり移転先は泉尾北村町続いて昭和30年以降は南恩加島町(今の平尾)であった。大正運河の埋め立ては昭和43年に始まり45年に完了。木材業者261社の平林地区への移転完了は昭和46年。千島計画(17.7ha)北村計画(9.5ha)はともにこの南部工区の中で生み出された土地を利用したもので詳細は第1回(P.1-6)参照。

⑧小学校の変遷

明治8年	(1875年)	4月	泉尾東小学校	泉尾新田内了照寺境内で創立
明治8年	(1875年)	7月	三軒家東小学校	三軒家町で創立
大正3年	(1914年)	4月	泉尾北小学校	泉尾東小学校から分離独立
大正5年	(1916年)	3月	三軒家西小学校	三軒家東小学校から分離独立
大正10年	(1921年)	4月	鶴町小学校	泉尾北小学校から分離独立
大正11年	(1922年)	7月	北恩加島小学校	泉尾東、泉尾北小学校から独立
大正13年	(1924年)	11月	南恩加島小学校	鶴町、泉尾東小学校から独立
大正13年	(1924年)	12月	中泉尾小学校	泉尾北、北恩加島小学校から独立
昭和30年	(1955年)	9月	平尾小学校	北恩加島小学校から分離独立
昭和45年	(1970年)	10月	小林小学校	平尾小学校から分離独立
昭和55年	(1980年)	4月	鶴浜小学校	鶴町小学校から分離独立

※戦前にあった三軒家南、大正、新千歳、港南小学校は現存しない。

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
推古	元	592	四天王寺建立	
大化	2	646	大化の改新詔・難波子代宮	
白雉	2	651	孝徳帝、難波長柄豊碕宮遷都	
天平	16	744	聖武帝、難波宮を皇都とする	
天平勝	4	754	唐僧鑑真、難波へ来着	
延暦	13	794	平安京遷都	
嘉祥	3	850		八十島祭初見
延喜	元	901	菅原道真、大宰府左遷	
治安	3	1023	藤原道長、四天王寺参詣	
大治	2	1127	白河上皇、四天王寺参詣	
保元	元	1156	渡辺党、源頼政軍へ参加	
建久	元	1190	源頼朝、四天王寺参詣	
元仁	元	1224		八十島祭最終見
嘉禎	3	1237	藤原家隆、四天王寺にて没	
暦応	元	1338	北畠顕家、足利幕府軍と摂津の渡辺・天王寺で戦闘	
応安	2	1369	摂津難波荘・木津浦と境相論	
応仁	元	1467	応仁の乱	
明応	5	1496	蓮如、生玉荘に石山御坊建立	
	6	1497	蓮如の消息に地名「大坂」が初見	
嘉禄	3	1530	細川高国、摂津の勝間・天王寺・今宮・木津・難波に陣構え	
元亀	元	1570	石山本願寺、織田軍を攻撃	
天正	4	1576		毛利水軍、織田軍の兵船を木津川口で破り、石山本願寺内に兵糧を運ぶ
	6	1578		織田方・九鬼水軍の安宅船が大坂を海上封鎖し、毛利水軍を木津川沖で撃破
	8	1580	教如大坂退去	
	11	1583	秀吉はじめて大坂入り	
	13	1585	大坂城本丸完成	
慶長	元	1596	大坂城惣構堀工事完了	
	3	1598	秀吉没	
	8	1603	家康征夷大將軍就任	
	15	1610		中村勘助、木津川尻の姫島に豊臣家の軍船係船所を建設、堤防を築いて田畑を開発。豊臣家より「勘助島」の名が与えられる(現在の三軒三軒屋、大坂防衛軍守衛地となる)
	19	1614	大坂冬の陣	松平忠明によって神明社(日中の神明社)が京都西院より中央区内平野町へ遷座される
元和	元	1615	大坂夏の陣、豊臣家滅亡	
	2	1616	大坂城下の町割が進み、船場を北組南組に分立	
	5	1619	大坂船手に小濱光隆を任命	
	6	1620	大坂城再築第1期工事完了	
寛永	2	1625		下の八坂神社勧請
	5	1628		三軒屋に真宗大谷派の専称寺建立
	7	1630	住友家大坂で銅商開店	中村勘助、木津川を浚渫。幕府より入津料・白米5合の取得を許される
正保	4	1647		勘助、上の八坂神社勧請
明暦	3	1657		川口三軒屋の遊郭禁止。新町遊郭に纏め
万治	2	1659		本願寺派万福寺を専称寺の北側に建立

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
寛文	5	1665	幕府、淀川・木津川・大和川を巡視 【大坂三郷人口26万人余】	大坂船手2員制 大番組頭・高林直重、勘助島に居住。船番所は勘助島にあり(～1683年まで)
延宝	12	1672		呑海寺建立
	3	1675		この年発行の『芦分船』によれば三軒屋は「次第に人家が満ち満ち軒を並べて繁栄して、旅泊の船出入り繁く」とある
貞享	元	1684	河村瑞賢、九条島を開削工事。1698年に竣工し安治川と命名 竹本義太夫、道頓堀で竹本座創設	大川改修で天満の替地を三軒屋に設定。舟津町・川本町・臼井町として大坂三郷に編入
元禄	12	1699		河村瑞賢、難波島を開削工事。木津川の水流を改良し、西側を難波島・東側を月正島と称す 泉尾神社創建
	15	1702		泉国踞尾村・北村六右衛門、泉尾新田を開発 泉尾新田検地
宝永	4	1707	宝永の大地震 M8.4	開発に伴う慰霊のため、了照寺建立
	5	1708	鴻池新田完成	泉尾新田堤防決壊 安治川・木津川の川口浚え(沖浚え)実施 木津川に遠見番所設置。お船蔵は元禄年間、既に番所の西にあり
享保	2	1717		木津川・大和川の浚渫決定
	15	1730		安治川・木津川の川口浚え
宝暦	13	1763		炭屋三郎兵衛、炭屋新田を開発
	14	1764		第11回朝鮮通信使、尻無川遡上
明和	5	1768		岡島嘉平次、数回に渡り千島新田を開発
	8	1771	摂河泉にお蔭参りが流行	平尾与左衛門、平尾新田を開発
安永	3	1774	京坂大風雨	川口で多数の船転覆。1200人余水死
天明	元	1781		両川口の川浚え実施
文政	12	1829		岡島嘉平次、南恩加島新田を開発
	2	1831	安治川お救い大浚え	岡島嘉平次、北恩加島新田を開発
	3	1832	天保山完成	岡島嘉平次、小林・岡田新田を開発 舟運のため、木津川口に870間の石堤を築き、松を植える(千本松)
弘化				木津川口お救い大浚え 産土神社(在:小林)創建 天満宮(在:南恩加島)創建
	7	1836		岡島嘉平次ら、千歳新田を開発
	2	1845		道頓堀・木津川の被害甚大 大正橋東詰に『大地震両川口津波記』の石碑建立
安政	元	1854	安政の大地震 M8.4	
			ロシア軍艦ディアナ号大坂来航	
文久	3	1856		木津川口は40艘余の番船、木津川沿岸には紀州兵など2600人で警戒 幕府、大坂城代・土屋寅直に安治川口・木津川口への台場建設を指示
	4	1857		幕府、高松藩に木津川口台場の警備命令
	3	1863	将軍家茂が大坂入り。34諸侯に大坂警備を命じる	土佐山内藩が木津川口を、美濃苗木藩が木津川船手番所を警備
元治 慶応	元	1864	大坂船手廃止	
	元	1865	将軍家茂、征長のために大坂入り	
	2	1866	将軍家茂、大坂城で没す	
	3	1867	将軍慶喜、大政奉還	

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区	
明治	元	1868	鳥羽伏見の戦い 大坂城炎上 醍醐忠順、初代大阪府知事に就任 川口居留地競売・大阪港開港		
	4	1871	廃藩置県 蔵屋敷廃止		
	5	1872	庄屋・年寄を廃止し区長戸長制度実施	当区は西成郡第2区、北部は2番組・南部は4番組となる	
	8	1875		泉尾小学校・三軒家小学校開校	
	11	1878		尻無川下流に遊泳場を設置。小学生水泳訓練	
	14	1881	板垣退助、戎座で政談演説会	大阪府、三軒家に倉庫10棟を持つ「船囲い場」(178000㎡)を開設	
	16	1883	造幣局、桜の通り抜け始まる	渋沢栄一らが三軒家に大阪紡績(後の東洋紡績)開業、『東洋のマンチェスター』の基礎を作	
	18	1885	淀川堤防大決壊	藤永田造船所が千島に開業。以後、木津川を中心に工場が続々と開業(栗本鉄工所etc...)	
	22	1889	大阪市発足。市政特例により市長は不在	当地は三軒家村と川南村の一部となる 曾根崎警察署三軒家分署設置	
	27	1894	日清戦争		
	30	1897	大阪市第1次市域拡張 大阪市築港工事開始(～昭和3年まで大阪港第1次修築工事)	大阪市編入。西区に属する 鶴町・福町(明治38～大正3)、船町(明治38～大正15)を中心に埋立(247万㎡)	
	31	1898	田村太兵衛、初代市長に就任		
	33	1900	町名大改正	三軒家は2町、他はほぼ新田名どおり設定	
	35	1902	大阪ガス論争(民営か公営か)		
	36	1903	市内河川巡航船開業	泉尾土地設立(北村銀行破産による)	
	37	1904	日露戦争開戦		
	38	1905	大阪ガス供給開始		
	42	1909	北の大火	大火の罹災市民延べ22000人、南恩加島の施設に収容	
	44	1911		西大阪最初の問屋市場「三泉市場」開設	
	45	1912		千島土地設立 小林斎場開設	
	大正	2	1913	東海道本線全線複線化	大戦ドイツ捕虜760名、大阪俘虜収容所(北の大火と同一施設)に収容(大正6年広島へ移動)
		3	1914	第一次世界大戦勃発	木津川焼却場開設 泉尾第2(北)小学校開校 千歳運河開削
		4	1915	天王寺動物園開園	大正橋架橋 市電、岩崎橋⇄日吉間を开通
		5	1916	【大阪市人口150万人】	大阪製鉄開業 三軒家第3(西)小学校開校
		6	1917	天保山運河開通	木津川運河開削 八坂神社境内に中村勘助顕彰碑建立
		7	1918	米騒動 中央公会堂竣工 方面委員制度(のちの民生委員)発足	久保田鉄工、恩加島に工場開設 市電、大正橋⇄木津川運河間を开通 大阪木材土地(株)創立。西区の西道頓堀・西長堀などから木材業者集団移転し小林町・千島町一帯は西日本有数の木材市場となる

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区	
大正	8	1919	大阪市児童相談所開設 渡船が市の管理下となる	大正運河開削開始(大正12年完成) 福町堀開削 鶴町に大阪市初の市営住宅建設 鶴町に託児所の設置 泉尾警察署発足 岩田土地設立 造船所、木津川筋32社・尻無川筋に16社群立 岩崎運河開削と岩崎橋の架橋	
	9	1920	第一回国勢調査	市電、大運橋⇄鶴町4丁目間を開通	
	10	1921	市庁舎が中之島に移転・新築 大阪最初のメーデー グリコ発売	泉尾高等女学校・鶴町小学校開校 泉尾振工会(工業会の前身)発足 鶴町公設市場開設	
	11	1922	大阪市婦人連合会結成 大阪体育協会結成 天保山栈橋竣工	北恩加島小学校・泉尾工業学校開校 泉尾公設市場開設 岩松橋架橋 市電、小林町⇄鶴町4丁目間を開通	
	12	1923	関東大震災 関市長就任	南条病院(のちの大正病院)開設 船町に木津川(大阪)飛行場が開設。日本航空(川西系)の拠点空港として陸上・水上の両機能備える 鶴町市電車庫開設	
	13	1924	甲子園野球場竣工	中山製鋼所、船町で開業 南恩加島小学校・中泉尾小学校開校	
	14	1925	第2次市域拡張。4区から13区へ	神明神社、中央区より鶴町1丁目へ遷座 西区から港区が分区(当区は港区に属す) 三軒家・泉尾地区の下水道管敷設完了	
	昭和	元	1926	御堂筋起工式	市電、三軒家⇄新千歳間を開通
		2	1927	大阪ばい煙防止調査委員会設置	日本ゼネラルモーターズ社、鶴町1丁目に開業。昭和16年までに約8万台を生産
		4	1929	世界恐慌始まる 日本航空、東京⇄大阪⇄福岡の定期旅客輸送を開始 第1次築港事業完了 阪急百貨店開業	大阪(木津川)飛行場開設(約39万㎡)、日本初の公共用空港。日本航空輸送等が名古屋・東京・福岡・大連・上海等へ航空路線。年間発着回数8800回・年間旅客1万人(昭和13年)。14年伊丹飛行場へ陸上飛行場機能移設され、水上機専用飛行場化 泉尾幼稚園開設 日本ゼネラルモーターズで労働争議
		5	1930	地下鉄御堂筋線起工式 高島屋南海店開店	区内初の市バス、野田阪神⇄鶴町間の運行開始
		6	1931	大阪城天守閣再建	
		7	1932	大阪市渡船事業直営化	港区から分区し、大正区が成立(15区制) 大正区歯科医師会・薬剤師会の創設
		9	1934	室戸台風来襲。市域の3割冠水、死者946人・被災者78万3千人	最大風速48km。区内全域冠水、死者119人・被災者12万3千人 北恩加島小学校で校舎倒壊、9人死亡 大正消防署、小林に新設
10		1935	大阪港復興修築工事着工 【大阪市人口299万人】	木津川飛行場で煙霧による飛行機墜落事故発 工業生産高が機械・金属工業を中心に市内2位へ(従事者数22000人)	

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	11	1936	市立美術館落成	可動橋の大船橋を架設
	12	1937	御堂筋竣工 電気科学館開館	大浪橋架設
	13	1938	校区町会連合会組織発足	大正区12連合、134町会
	14	1939	警防団結成	中山製鋼所新溶鉱炉完成 【大正区人口15万2000人】
	15	1940	大政翼賛会結成 【大阪市人口325万人】	木津川・尻無川の防潮堤完工
	16	1941	太平洋戦争開始	東洋紡績軍需工場転換 (財)大井積善会設立
	18	1943	中之島公園で出陣学徒合同壮行式	泉尾警察署を大正警察署と改称 大正保健所業務開始
	19	1944	学童疎開始まる	市電、小林町⇄新千歳間運転を休止
	20	1945	8次に及ぶ大阪大空襲・市内被災者は120万人以上 終戦	南恩加島小学校児童、疎開先の徳島県で16名焼死(十六地蔵) 大阪大空襲(3/13. 6/1. 6/15)で区の大半焼失。被災者約55000人
	21	1946	枕崎台風来襲 【大阪市人口172万人】 国民学校で給食再開 昭和南海地震 M8.0	8月【大正区人口約1万人】 10月【大正区人口27637人】 大正区復興委員会結成 大正区選挙管理委員会設立 区商店会連盟結成 大正区水防団結成 (財)皓養社設立
	22	1947	南海ホークス誕生 戎橋松竹座開場 角座、再築・開業 【大阪市人口156万人】	新制中学校(大正東・大正中央)発足 三軒家西幼稚園設立 遺族会大正区支部結成 大正区医師会発足 大正防犯協会結成 大阪港復興計画で大正内港化決定 区画整理事業『難波島工区設計』認可 (昭和36年、換地処分公告)
	23	1948	大阪市消防本部発足 新制高校発足	大正区防火協力会結成 男女共学により、女子高・泉尾高校が男子校・今宮高校と交流
	24	1949	大阪市PTA結成大会 大阪市教育委員会発足 大阪市立大学設置 近鉄パールズ誕生	大正区民生委員協議会設立 体育厚生協会・大正区支部設置 大正区日赤奉仕団発足 大正交通安全協会発足 大正区PTA協議会発足
	25	1950	ジェーン台風、大阪上陸 朝鮮動乱 大阪球場開業 【大阪市人口195万人】	台風被害・区域の83%が浸水。被災者57000人(人口の96%) 西大阪総合高潮対策事業着手(昭和30年完 港湾地帯整備事業の大正地区南部工区設計 可(平成6年度、換地処分公告) 大正橋公園・泉尾公園開園 泉尾球場開設 【大正区人口59784人】

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	26	1951	サンフランシスコ講和会議 関西電力設立 大阪共同募金会発足 毎日放送・朝日放送開局 大阪埠頭倉庫(株)設立	区画整理事業三軒家工区設計認可 (昭和62年度、換地処分公告) 済生会泉尾病院開設 大正区社会福祉協議会結成 大正区女性団体協議会結成 区内最初の老人クラブ「千島鶴亀会」発足 大正区「母と子の共励会」発足 社団法人大正工業会設立
	27	1952	大阪沖繩県人会連合会結成 大阪読売新聞創刊	尻無川、境川運河以北埋め立て 区保護司会発足 傷痍軍人会大正区支部発足
	28	1953	市営トロリーバス開業	区福祉事務所発足 鶴町中央公園開設
	29	1954	NHK大阪中央放送局テレビ放送開始	市バス、船町⇄大阪駅前間を運行 市電・鶴町車庫、盛り土のため閉鎖
	30	1955	第3次市域拡張	カーフェリー、船町⇄平林間運行を開始(～48年まで)
	31	1956	【大阪市人口254万人】 政令指定都市制度発足 通天閣再建・開業	【大正区人口78012人】 平尾小学校開校 大正区更生保護女性会結成
	32	1957	上方落語協会結成 ナンバ地下センター開業 ごみ収集パッカー車、試用開始	大正区市場連合会結成 大正区老人会連合会結成 市バス、西船町⇄あべの橋間を運行 大正西中学校開校 大正工業会若葉会創設
	33	1958	南港埋立起工式 関西テレビ開局	三軒家川、紡績大橋まで埋立 淀川左岸事務組合発足 三軒家球場開設 青少年指導員連絡協議会創設
	34	1959	四天王寺五重塔、再建竣工 市内防潮堤竣工式 伊勢湾台風来襲	三軒家防潮水門完成 南恩加島抽水所完成 鶴町・福町、盛土完成
	35	1960	司馬遼太郎、直木賞受賞 難波宮址顕彰会発足	大正区子供会連合協議会結成 三軒家公園に「近代紡績工業発祥の地」石碑設置 大正産業会館完成
	36	1961	【大阪市人口301万人】 国民年金・国民健康保険制度発足 地下鉄中央線、弁天町⇄大阪港間を開通 第2室戸台風来襲	【大正区人口93377人】 大正駅開設 国鉄・天王寺⇄西九条間、環状線開通 台風のため鶴町・福町全域冠水。その後、防潮堤嵩上げ実施
	37	1962	阪神高速道路公団発足 千里ニュータウン町びらき	水道局、大正サービスステーション開設 大阪大正ライオンズクラブ創設
	38	1963	名神高速道路開通 日米間テレビ宇宙中継実験	区制30周年記念祝賀会 大正公害防止会発足 大正区ふたば会設立 千島下水処理場完成

大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	39	1964	東京オリンピック開催 東海道新幹線開業	大阪環状線一周運転開始 大正区緑化推進本部発足 大正消防署改築
	40	1965	弁天埠頭、供用開始	大阪臨港地区指定 鋼材埠頭、供用開始 鶴町南公園開園
	41	1966	【大阪市人口315万人】 いざなぎ景気 泉北ニュータウン着工 NHK朝の連続ドラマ「おはなはん」 放送	【大正区人口95509人】 工業用水道給水開始 水道大正幹線敷設 大正第1突堤、供用開始。大阪海運事業協同 組合が運営
	42	1967	阪神高速環状線開通	大正区内市電廃止 交通局鶴町営業所発足 南恩加島公園開設
	43	1968	日本、GNP世界第2位	鶴町北公園開園 大正運河埋立開始(45年終了)
	44	1969	東名高速道路全通	千島計画発表
	45	1970	天六ガス爆発事故 日本万国博覧会開催 地下街「虹のまち」開業 船場センタービル完成 新御堂筋道路全通 【大阪市人口298万人】	国道43号線、阪神高速・西大阪線開通 木津川・尻無川両防潮水門完成 千島公園植樹式 小林公園開園 小林改良地区指定(53年に住宅完成) 大正地区BBS会結成 【大正区人口88954人】
	46	1971	大阪市消費者センター開設 大阪南港にフェリー埠頭開設	区内初の老人憩いの家、鶴町福祉会館完成
	47	1972	沖縄返還 千日デパート火災 敬老優待乗車証交付開始	区内木材業者の住之江移転完了 大正区合同庁舎完成 大正区食生活改善推進協議会設立 身体障害者団体協議会設立
	48	1973	第1次石油ショック	千本松大橋完成
	49	1974	大阪市26区制実施 港大橋・南港大橋開通	小林小学校開校 千島体育館開設 市バス、急行運行開始
	50	1975	第一回サミット開催 沖縄海洋博覧会開催 大阪市地域振興会発足 【大阪市人口278万人】	第1回区民まつり 大正区地域振興会発足 大正内港化による拡張・浚渫工事完了 鶴町社協「老人食事サービス」「友愛訪問活動」 の事業開始 【大正区人口88485人】
	51	1976	大阪駅前「マルビル」オープン 大阪ビジネスパーク事業認可 難波宮跡の一般公開開始	千島公園開園 千島計画完了 老人福祉センター・勤労青少年ホーム開設
	52	1977	静止衛星ひまわり打ち上げ	大正区住居表示実施
	53	1978	大阪市総合計画策定 なんばCITY開業	大正区政協力会結成 大正高校・大正北中学校開校 人権啓発推進協議会発足 体育指導委員協議会創設

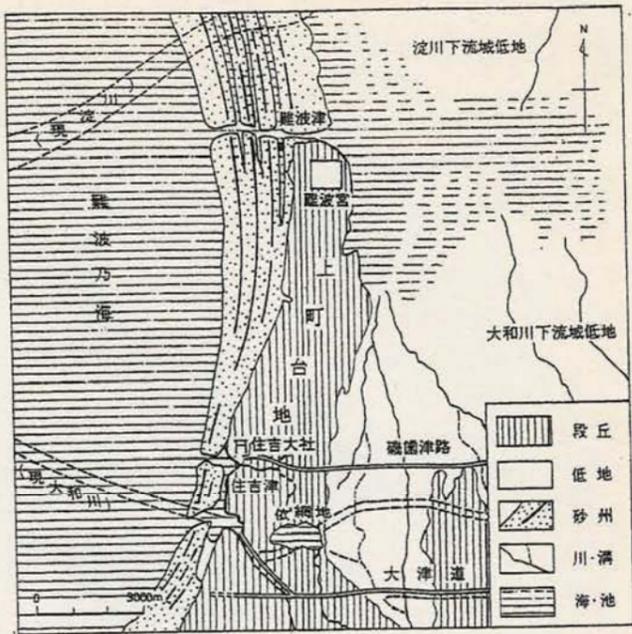
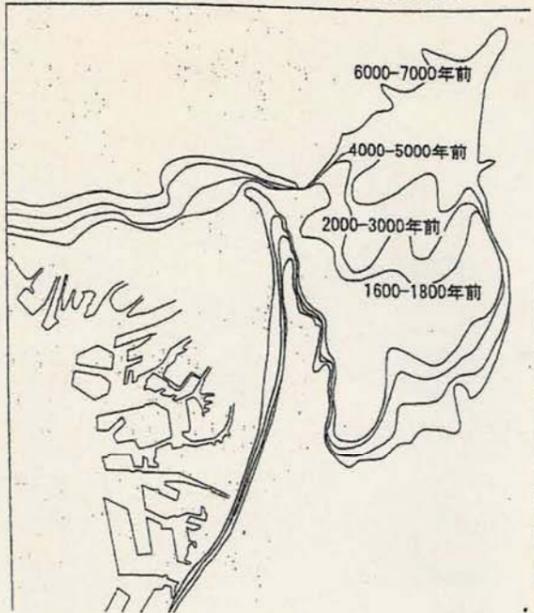
大正区年表

年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
昭和	54	1979	東京サミット開催	大正通の拡幅完了
	55	1980	南港に人工海水浴場開設	千島公園と泉尾公園を結ぶ緑陰道完成
			上本町ハイハイタウン開業	鶴浜小学校開校
	56	1981	地下鉄谷町線、天王寺⇄八尾南間を開通	小林斎場改築完成
			【大阪市人口265万人】	環境事業局新大正工場完成
	57	1982	ニュートラム開業	【大正区人口84041人】製造品出荷額市内7位
			大阪21世紀協会設立	花と緑のまちづくり推進委員会創設
	58	1983	市立東洋陶磁美術館開館	大正区制施行50周年記念式典
				難波島渡し廃止
	60	1985	大坂城築城400年まつり開催	平尾公園開園
			大坂城ホール完成	「昭和山コーポ」地鎮祭
	61	1986	阪神タイガース戦後初の日本一	泉尾連合商店街アーケード完成
インテックス大阪オープン			大正区まちづくり計画推進会議発足	
62	1987	【大阪市人口264万人】	(財)大正区コミュニティ協会設立	
		大阪市庁舎竣工	【大正区人口82330人】	
63	1988	大阪市の花をさくら・パンジーと制定	北恩加島工業団地竣工	
			大正区の花を「つつじ」と制定	
平成	元	1989	瀬戸大橋開通	特別養護老人ホーム「大正園」竣工
			南海、阪急球団譲渡決定	新バスシステム運行開始
	2	1990	市公文書館開館	寝たきり予防推進協議会発足
			市制100周年	市制100周年区民フェスティバル開催
	3	1991	24区制(新北区・中央区)発足	鶴町福祉会館「子供の家」開所
			国際・花と緑の博覧会開催	【大正区人口81272人】
	4	1992	【大阪市人口262万人】	地域ネットワーク委員会設立
			新婚世帯向家賃補助制度実施	マリンテニスパーク北村オープン
	5	1993	大阪市高齢者総合相談情報センター開設	大正区手をつなぐ親の会設立
			リフト付市バス運行開始	大正警察署新庁舎落成
	6	1994	東海道新幹線に「のぞみ」登場	大正区社会福祉協議会法人化
			大阪市生涯学習大阪計画発表	大正区ボランティアビューロー開所
7	1995	大阪市立大付属病院新築	区役所全土曜日閉庁実施	
		弁天町市民学習センター開設	大正消防署泉尾出張所開設	
8	1996	関西国際空港開港	新木津川大橋開通	
		全市で資源ごみ収集実施	平尾商店街アーケード完成	
9	1997	大阪WTC開設	なみはや大橋開通	
		大阪オリンピック招致推進会議	大正区在宅サービスセンター(ふれあい福祉センター)開設	
10	1998	【大阪市人口260万人】	【大正区人口78372人】	
		みおつくし総合ネット開始	大正西地域サービスステーション開所	
11	1999	大阪ブルー・靱テニスオープン	シルバークレイン開所	
		テクノポート線開通	『区民だより』創刊	
12	2000	大阪ドームオープン	地下鉄鶴見緑地線開通、大正駅開業	
		クリスタ長堀開業	JR大正駅リニューアルオープン	
13	2001	高度浄水処理水、通水開始	大正やすらぎ会館開館	
		舞洲陶芸館開館	青少年育成推進会発足	
14	2002	大阪オリンピック招致委員会設立	新大正区民音頭発表	
			アゼリア大正(文化交流プラザ)開館	
15	2003	介護保険制度開始	平尾公園会館開館	
		なにわの海の時空館開館	大正東地域サービスステーション開所	
16	2004	【大阪市人口260万人】	大正区生涯学習推進区民会議設立	
			【大正区人口75042人】	

大正区年表

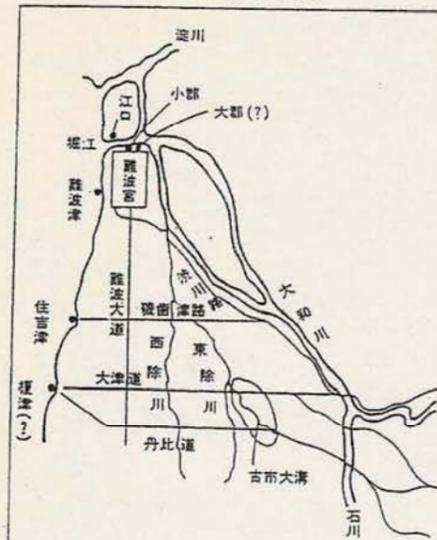
年号	年	西暦	大阪・一般	大正区
平成	13	2001	USJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)開園 クレオ大阪中央オープン 大阪歴史博物館開館	(社福)大正区社会福祉協議会50周年 大正区地域女性団体協議会50周年
	14	2002	サッカーワールドカップ, 初の日韓共同開催 中央公会堂リニューアルオープン	済生会泉尾第2病院開院 ふくろうの杜開設
	15	2003	世界柔道選手権大会	千歳橋開通

畿海岸線の変化 (梶山晋太郎・市原実『畿大阪平野発達史』による)



古代の景観 (難波津・住吉津周辺 日下雅義氏作成)

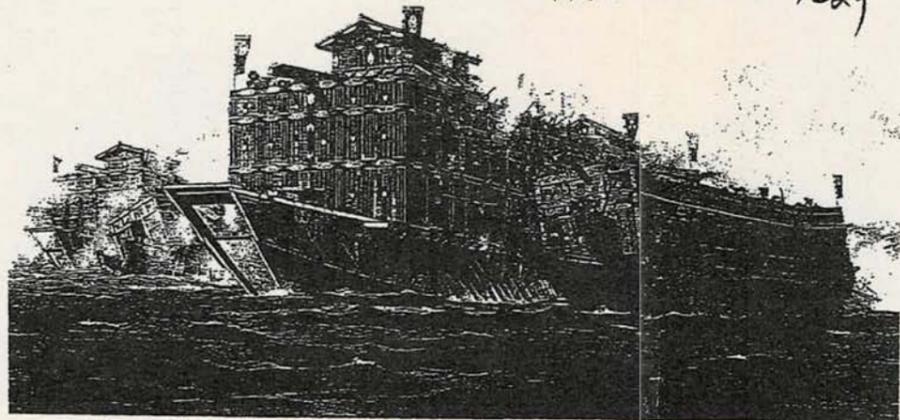
河内古道港津模式図



三宇期 新修大坂市史
■寺社参詣のルート



図42 石山合戦関係図



木津川沖海戦後 天正6年(1578)。鉄板で装甲した織田水軍の天守毛船が、毛利水軍を木津沖で打ち破った。イラスト、谷井隆三

「朝日版 日本歴史27」より

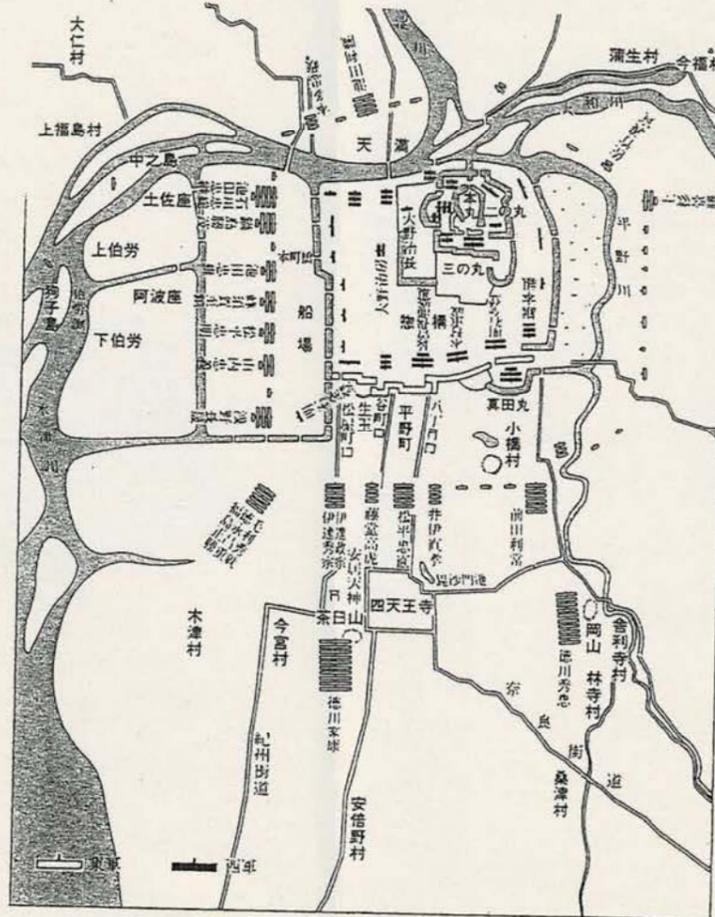
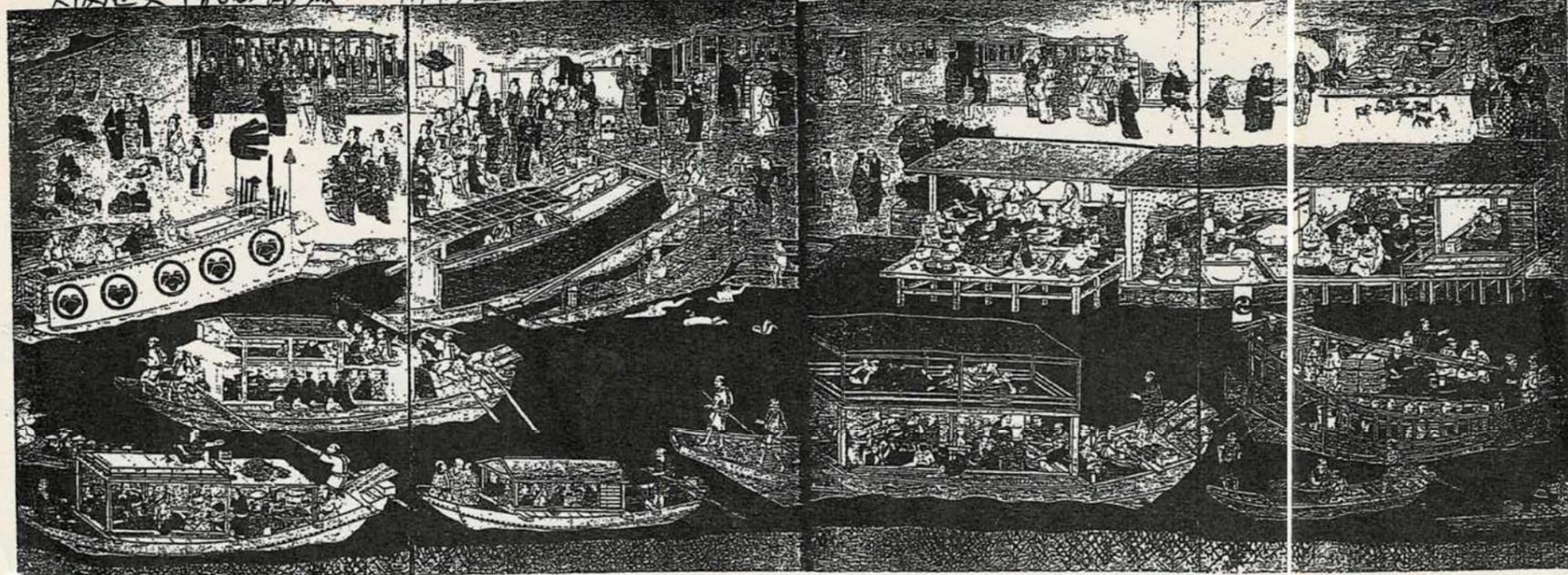


図1 大坂冬の陣両軍布陣図(慶長19年12月) 『日本戦史』付図、『櫻台武鑑』ほかによる。



新田開拓の推移

「わがまち大正」より

新田名	開発年代	開発者	所在地
三軒家村 216石	慶長15年(1610)	中村勘助	正13年までの三軒家上之町
三軒家地子 63石	元和年間(1615-24)	難波島の漁師 助右衛門ら移住	正13年までの三軒家下之町
難波島地子 21石	寛永年間(1624-44)	難波村 氏原甚左衛門	E居表示までの難波島町、今木町
泉尾新田 721石	元禄15年(1702)	和泉尾村 北村六右衛門	正14年までの泉尾町
炭屋新田 27石	宝暦13年(1763)	大阪瓦町 炭屋三郎兵衛	E居表示までの新炭屋町
千島新田 211石	明和5年(1768) 天保13年(1842)	東成郡千林村 岡島嘉平次	E居表示までの千島町
今木新田 67石	明和7年(1770) 安永7年(1778)	岡島嘉平次	住居表示までの今木町
平尾新田 51石	明和8年(1771)	大坂江戸堀 平尾与右衛門	住居表示までの平尾町
中口新田 26石	安永元年(1772)	難波島 中口勘右衛門	昭和36年難波島町に合併されるまでの中口町
上田新田 3石	安永3年(1774)	三軒家村 上田 伍兵衛	明治17年千島新田に合併される
南思加島新田 222石	文政12年(1829) 明治4年(1871)	岡島嘉平次	住居表示までの南思加島町
北思加島新田 92石	天保2年(1831)	岡島嘉平次	住居表示までの北思加島町
小林新田 33石	天保3年(1832)	岡島嘉平次	住居表示までの小林町
岡田新田 75石	天保3年(1832)	岡島嘉平次	明治33年小林町に合併される
千歳新田 177石	弘化2年(1845)	西成郡長柄村 木下 延太郎 岡島嘉平次	住居表示までの新千歳町

合計 2,015石

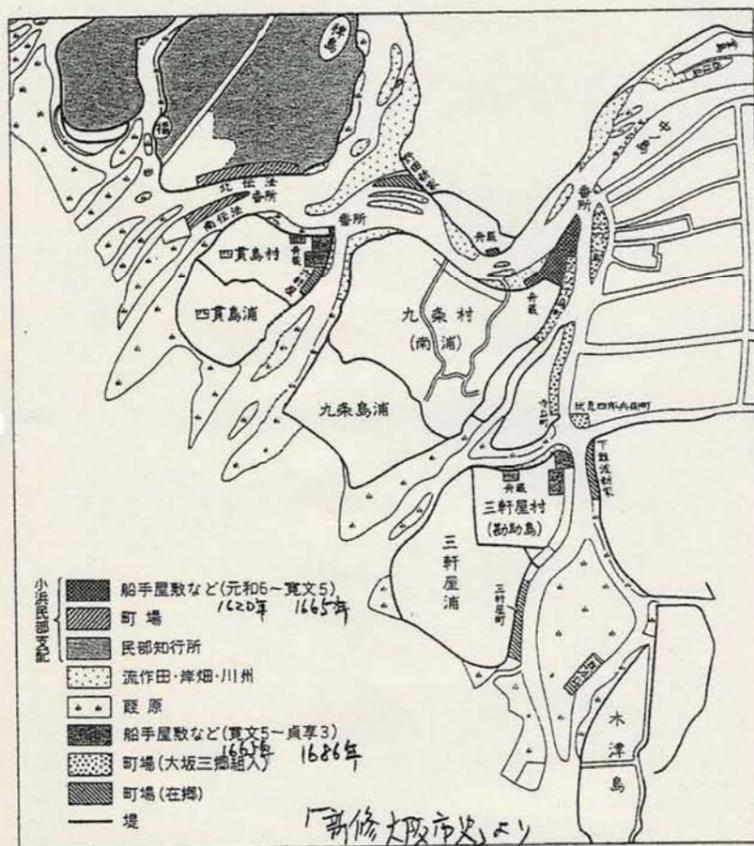
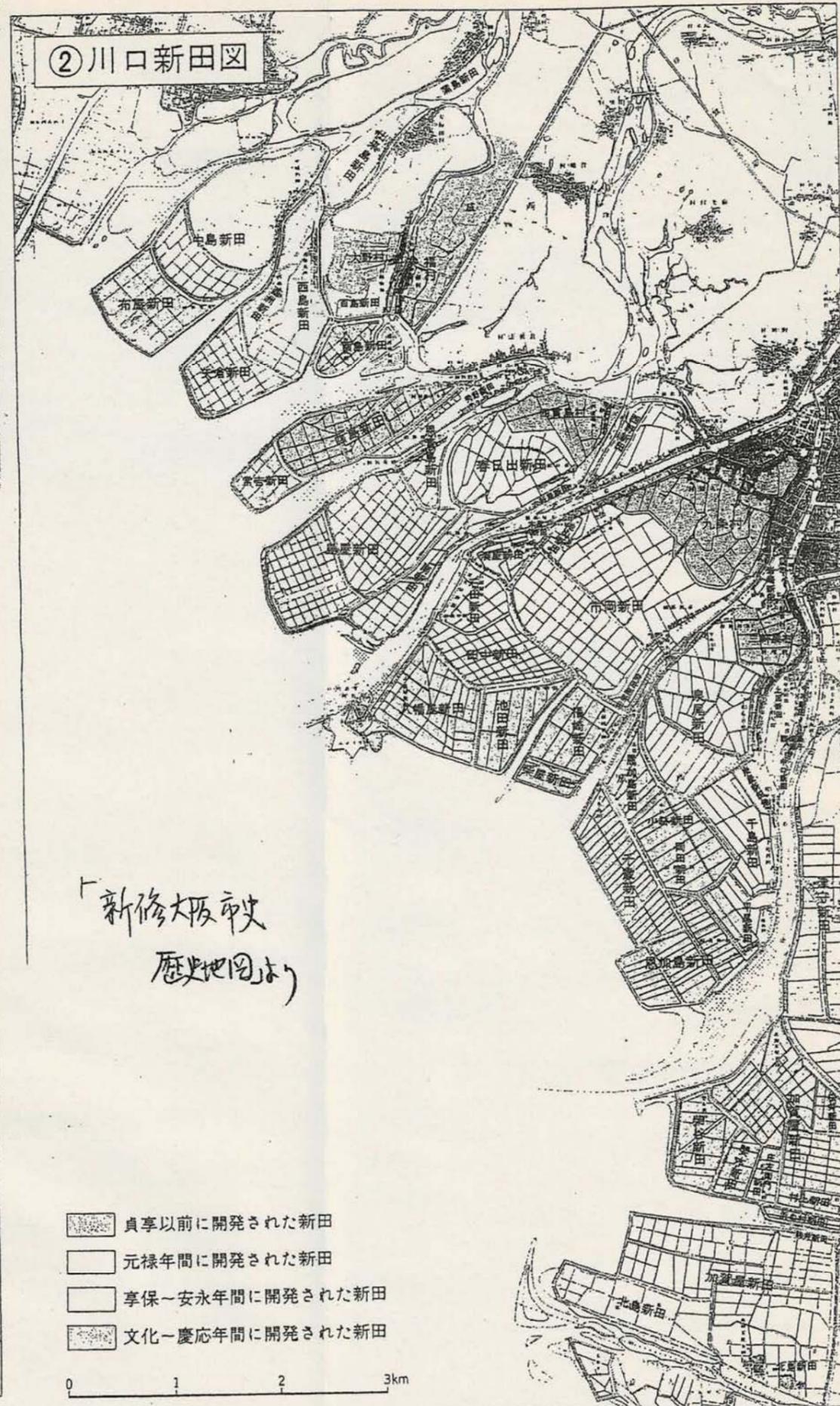


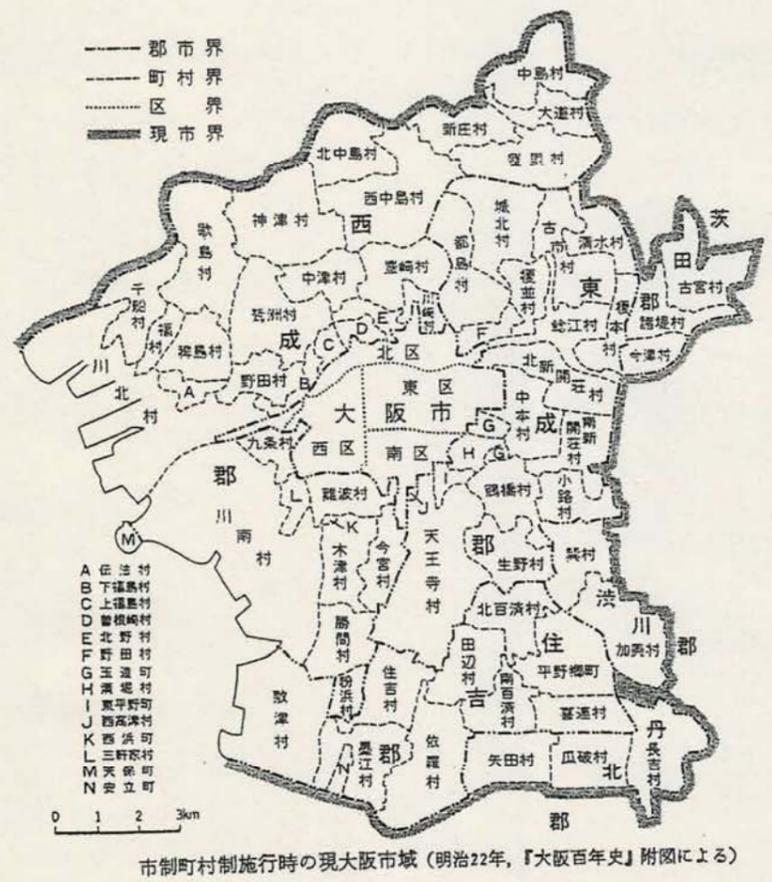
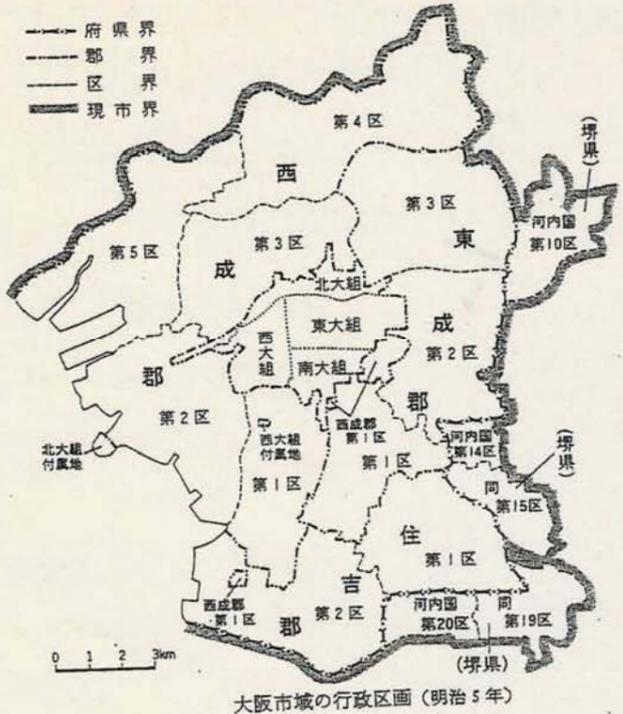
図 24 川尻浜手の開発と小浜民部領(芦田家「大和川筋大絵図」)

小浜民部は初代隆平(元禄5年(1699年)に初任。2代嘉隆、3代初隆と「大坂船町頭」を務めた。

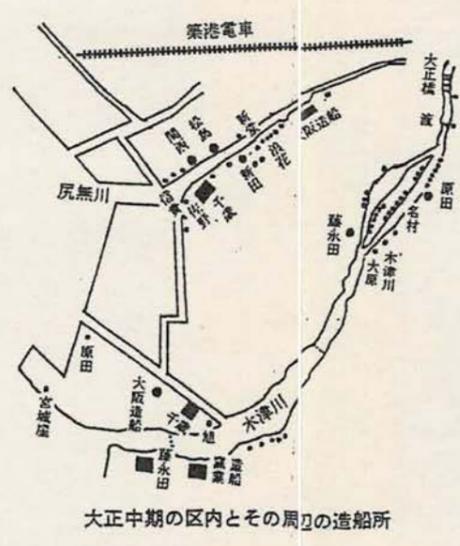
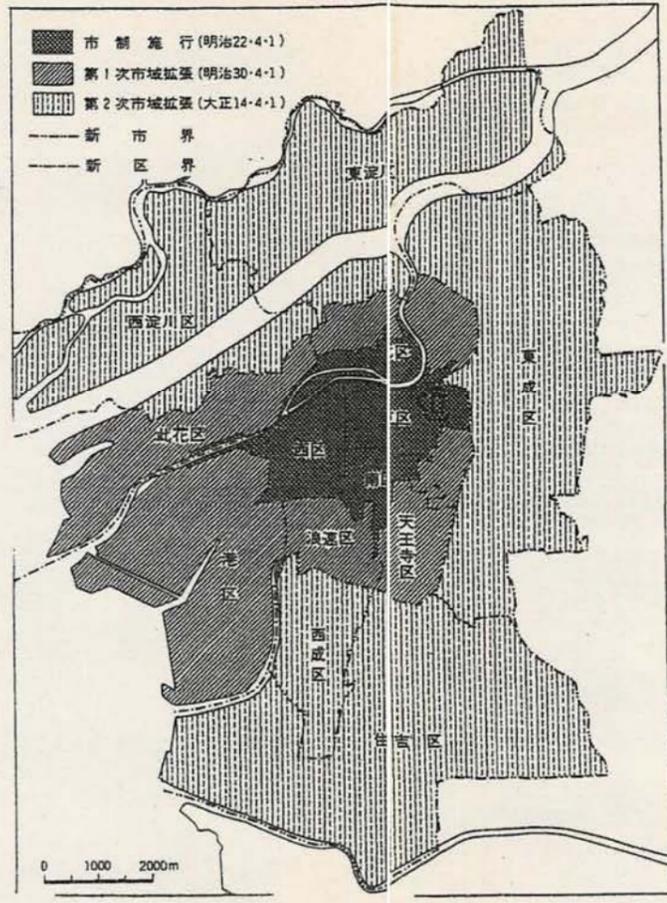
②川口新田図



「新修大阪市史
歴史地図」より



■市域の拡張



戦災関係

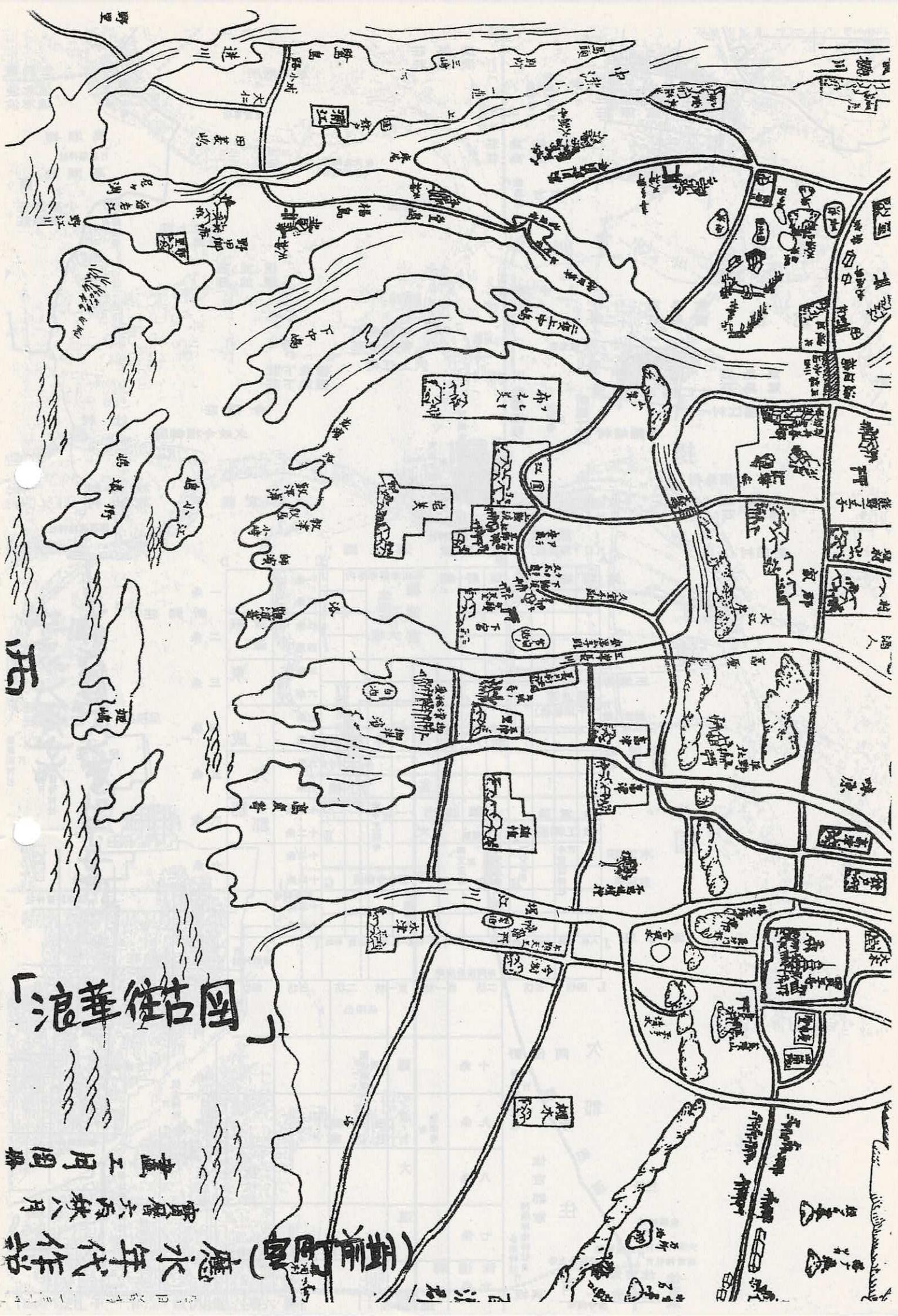


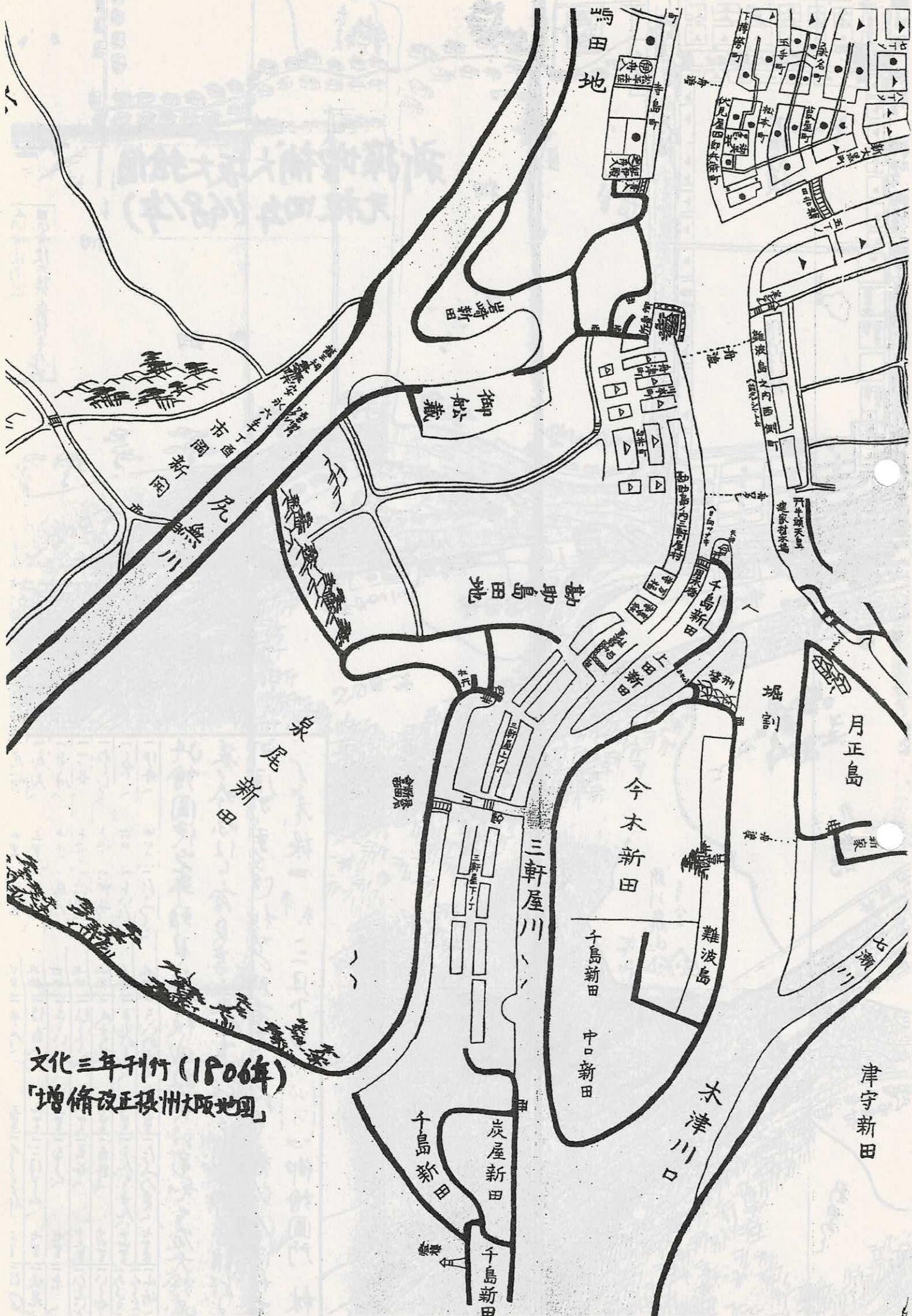
應永年代作始 (新編) 應永年代作始

實曆六百廿八月 畫工月國鼎

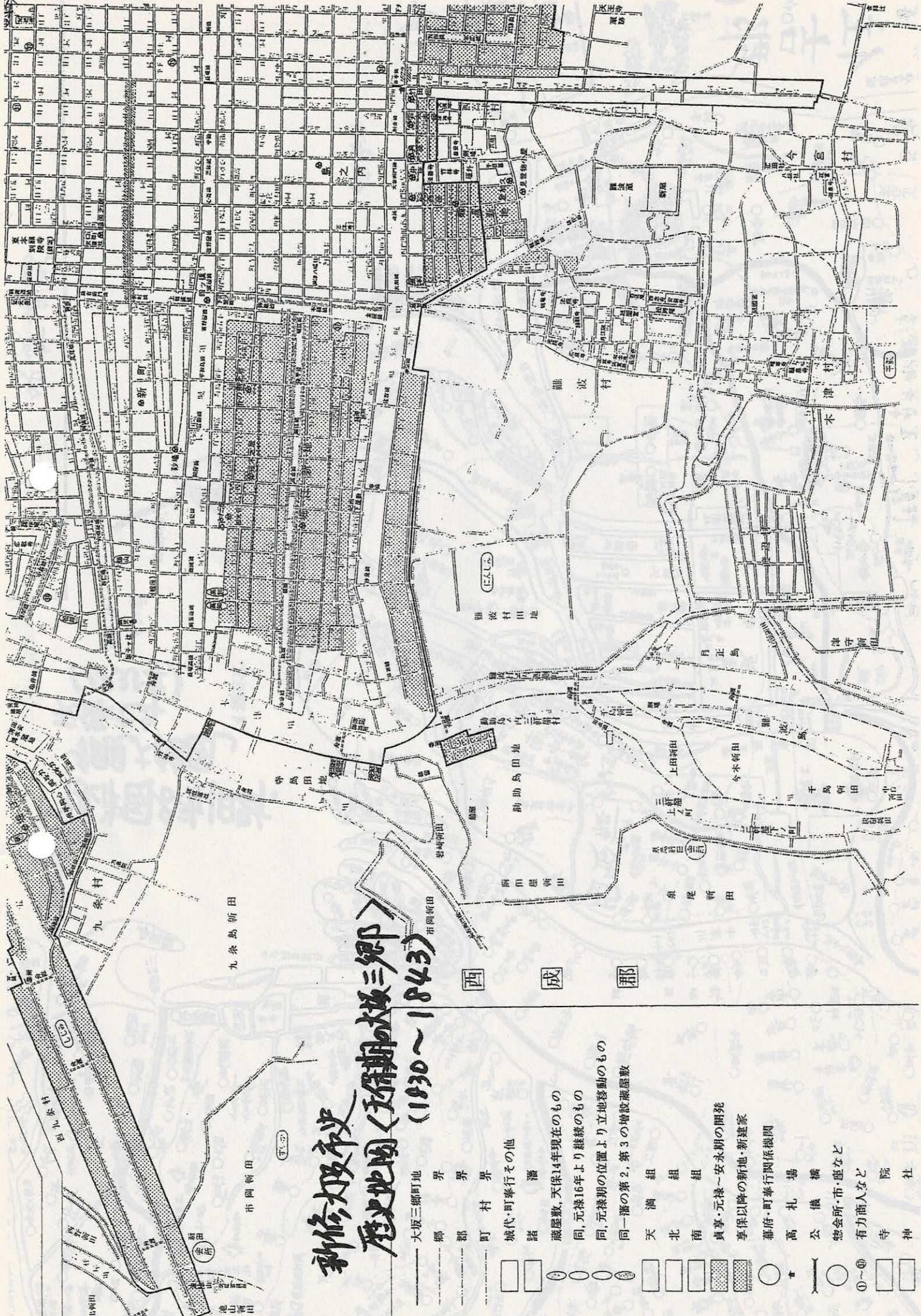
「因詰街華浪」

丙





文化三年刊行(1806年)
 「増脩改正摂州大阪地圖」



新修大坂市史 歴史地図〈天保期の大坂三郷〉 (1830~1843)

- 大坂三郷町地
- - - 界
- 界
- 界
- 町
- 村
- 町奉行その他
- 諸
- 藏屋敷, 天保14年現在のもの
- 同, 元禄16年より継続のもの
- 同, 元禄期の位置より立地移動のもの
- 同一藩の第2, 第3の増設藏屋敷
- 天 滴 組
- 北 組
- 南 組
- 貞享・元禄~安永期の開発
- 享保以降の新地・新建家
- 幕府・町奉行関係機関
- 高 札 場
- 公 儀 橋
- 惣会所・市・座など
- 有力商人など
- 寺
- 社

西 成 郡

九条島新田

市岡新田

難波村田地

助助島田地

新田

泉尾新田

新田

津守新田

新田

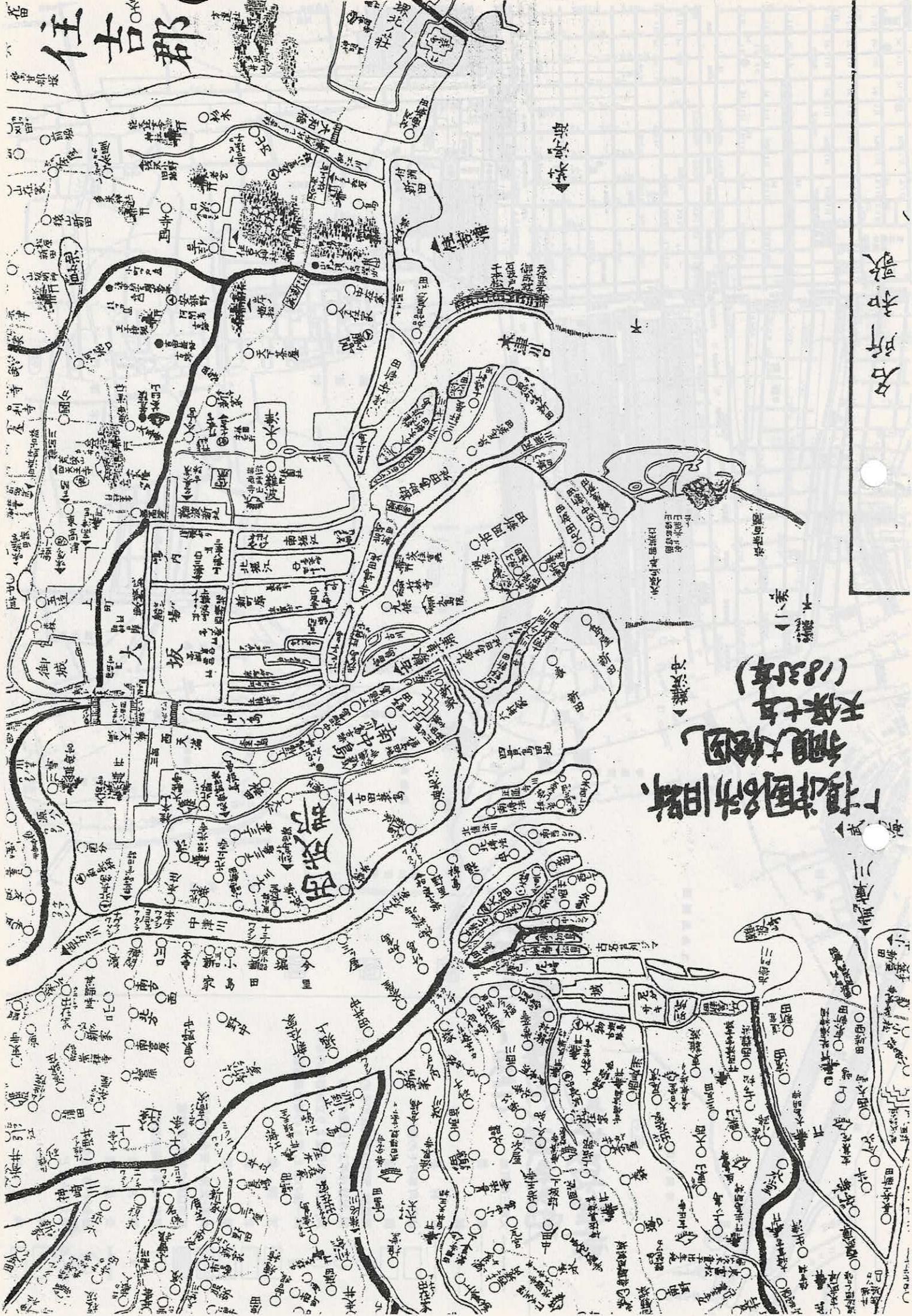
「提洋國所日野」 「鐵大燬」 天保七年 (1835年)

一、美
二、

百深瀬

武海

三



住吉郡

舊

後中報據

味取

住吉

津川

大坂

南無

三

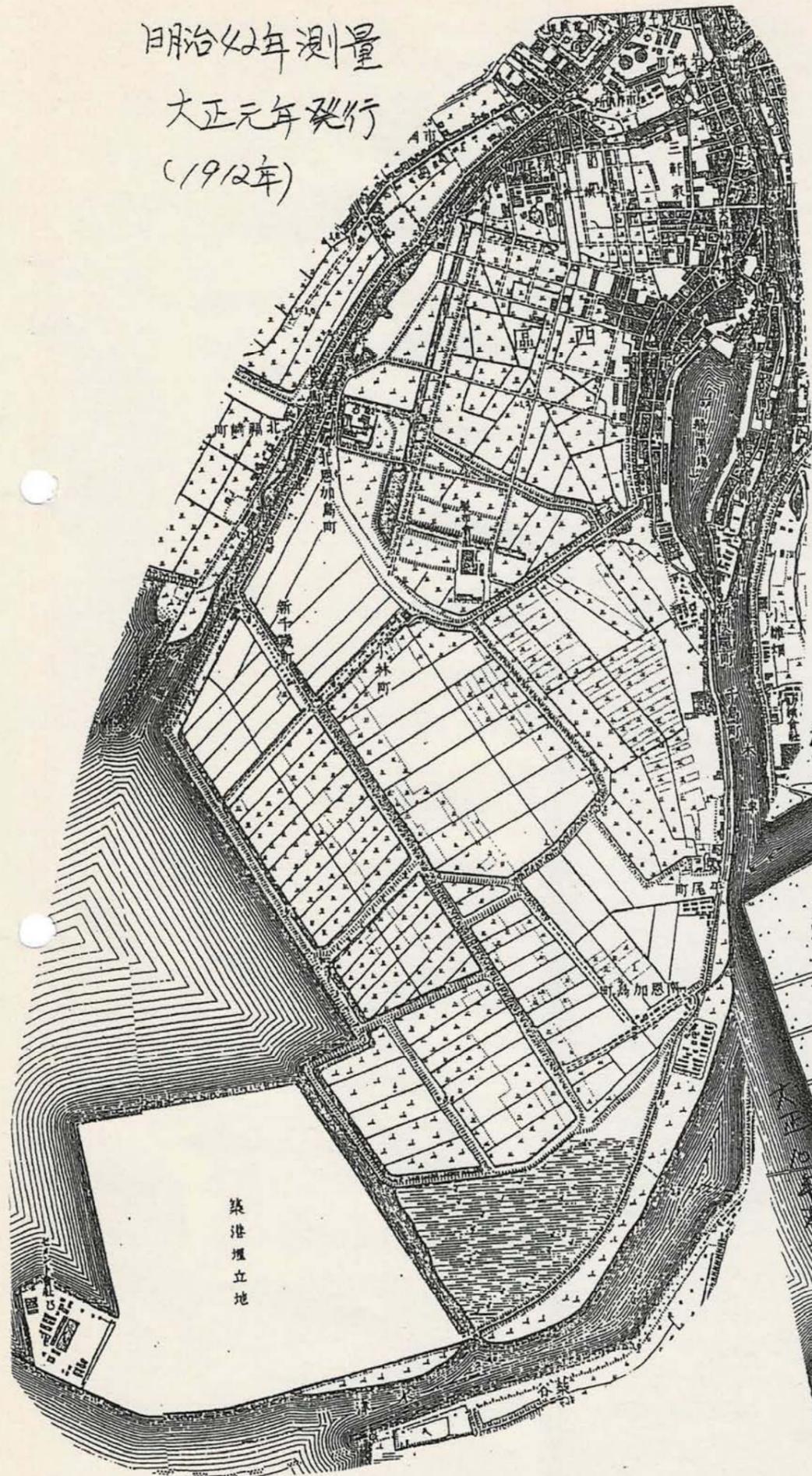
三

三

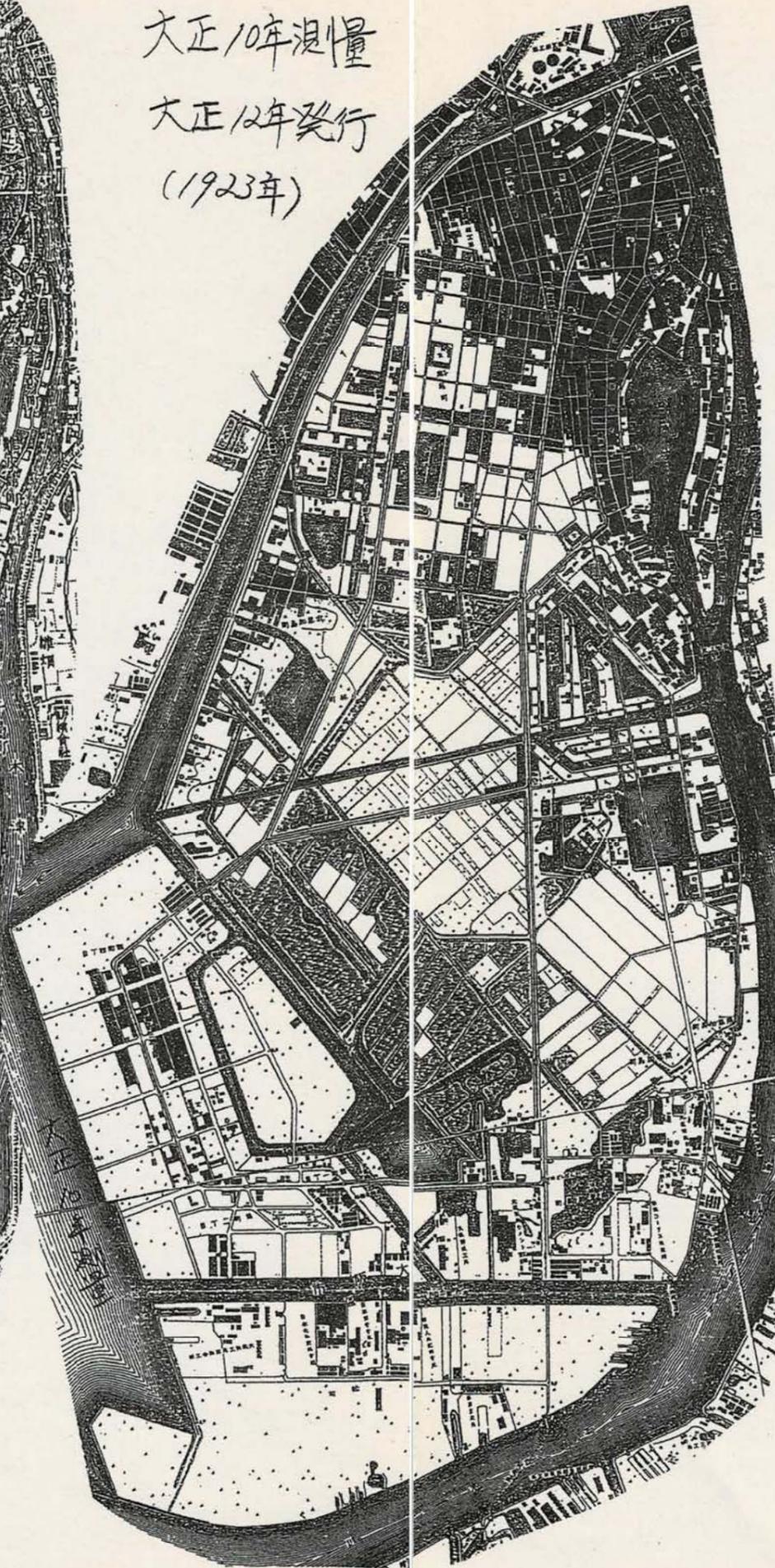
三

三

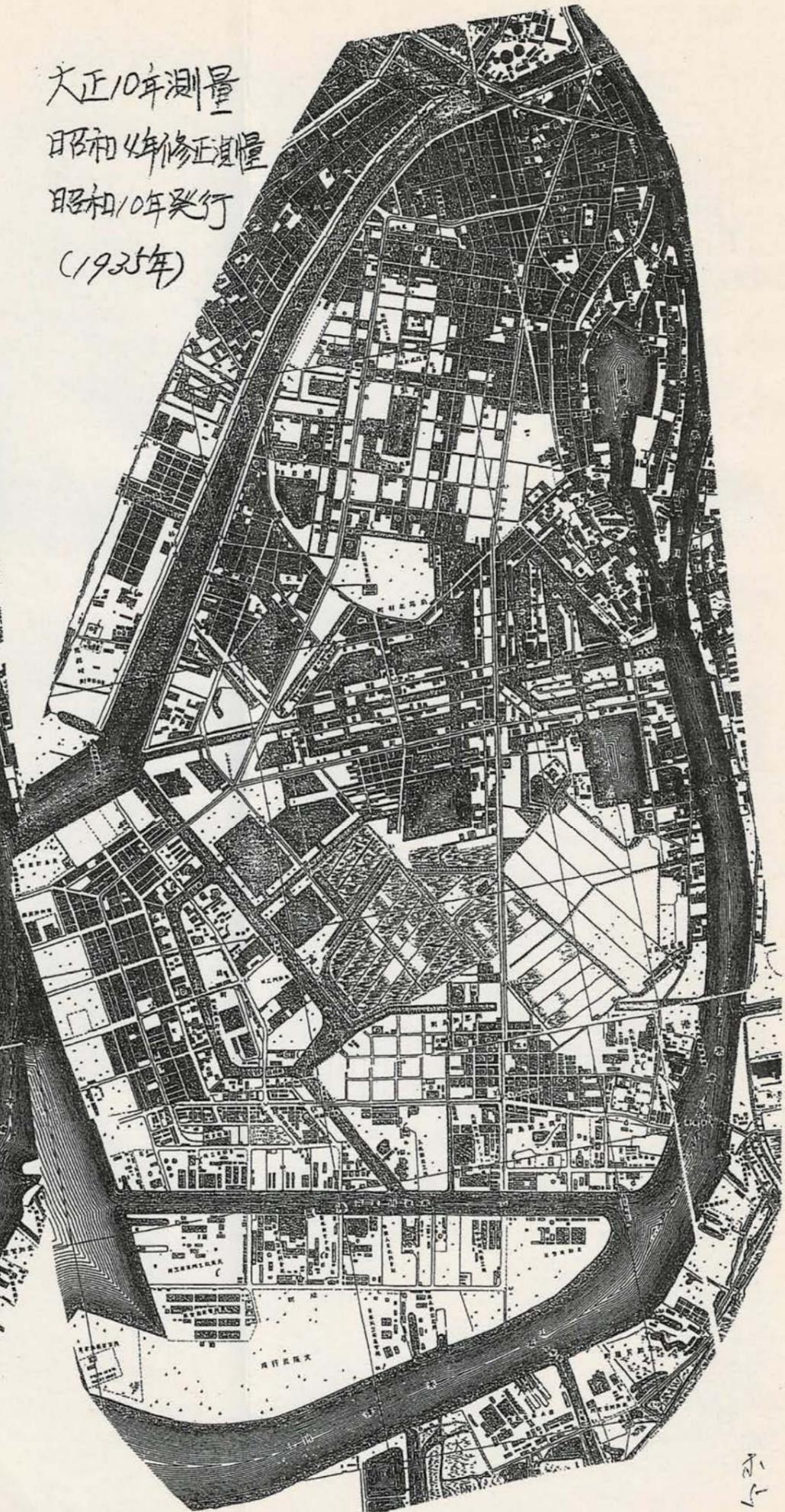
明治42年測量
大正元年發行
(1912年)



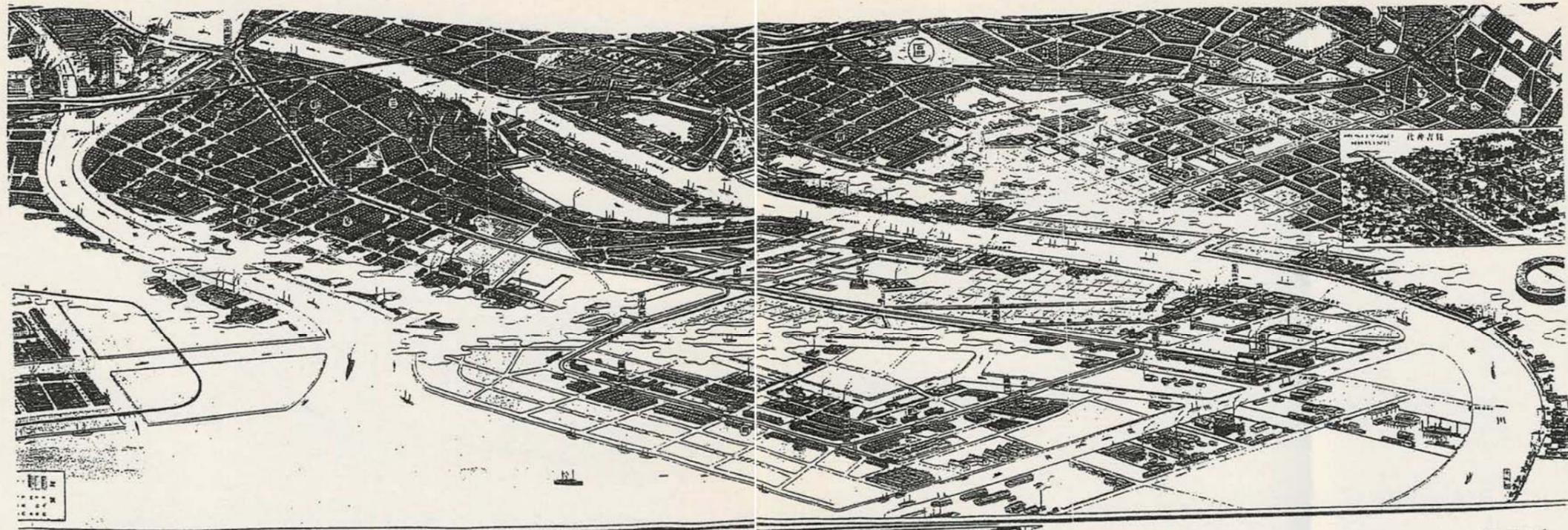
大正10年測量
大正12年發行
(1923年)



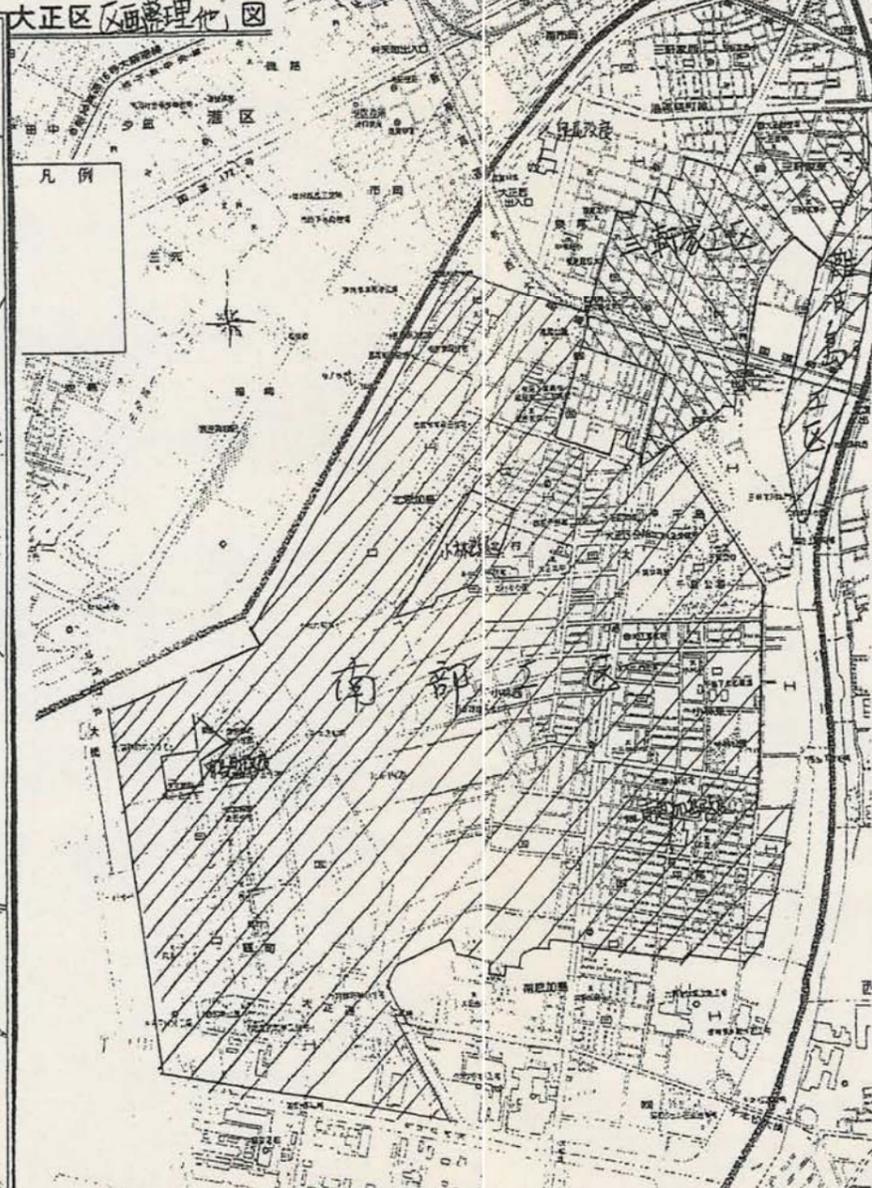
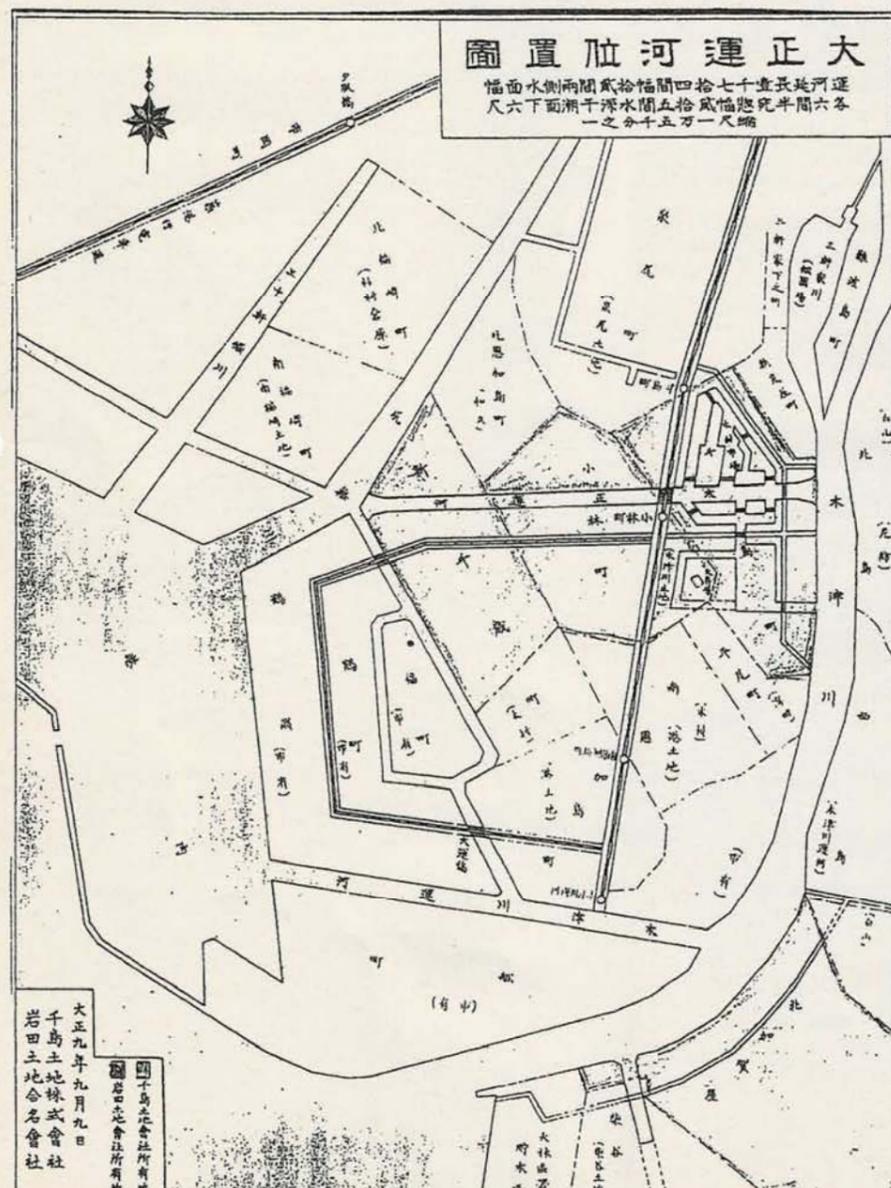
大正10年測量
昭和4年修正測量
昭和10年發行
(1935年)



築港埋立地



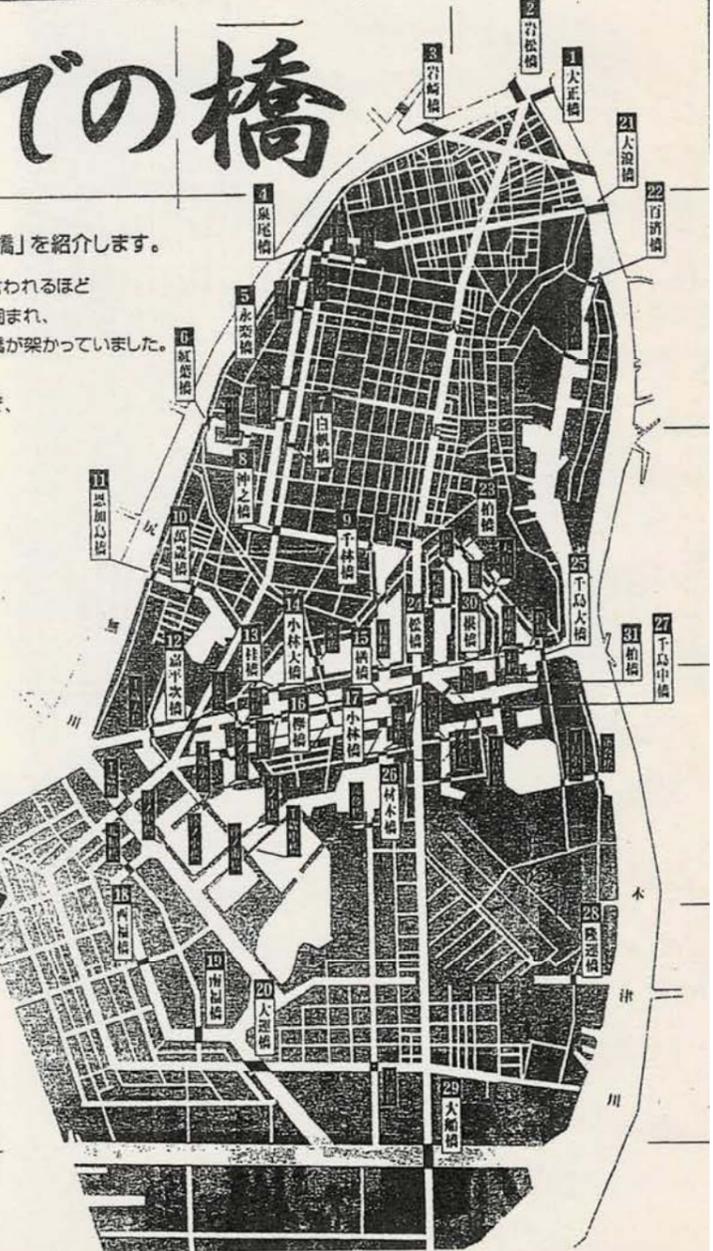
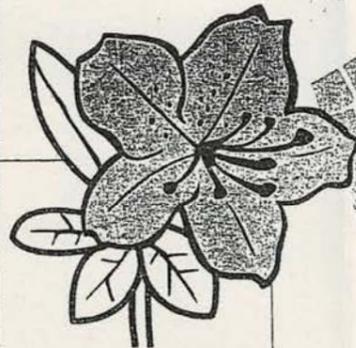
大阪市のラマ地図(部分)
大正13年



おもいででの橋

区制70周年を記念して、「おもいででの橋」を紹介します。

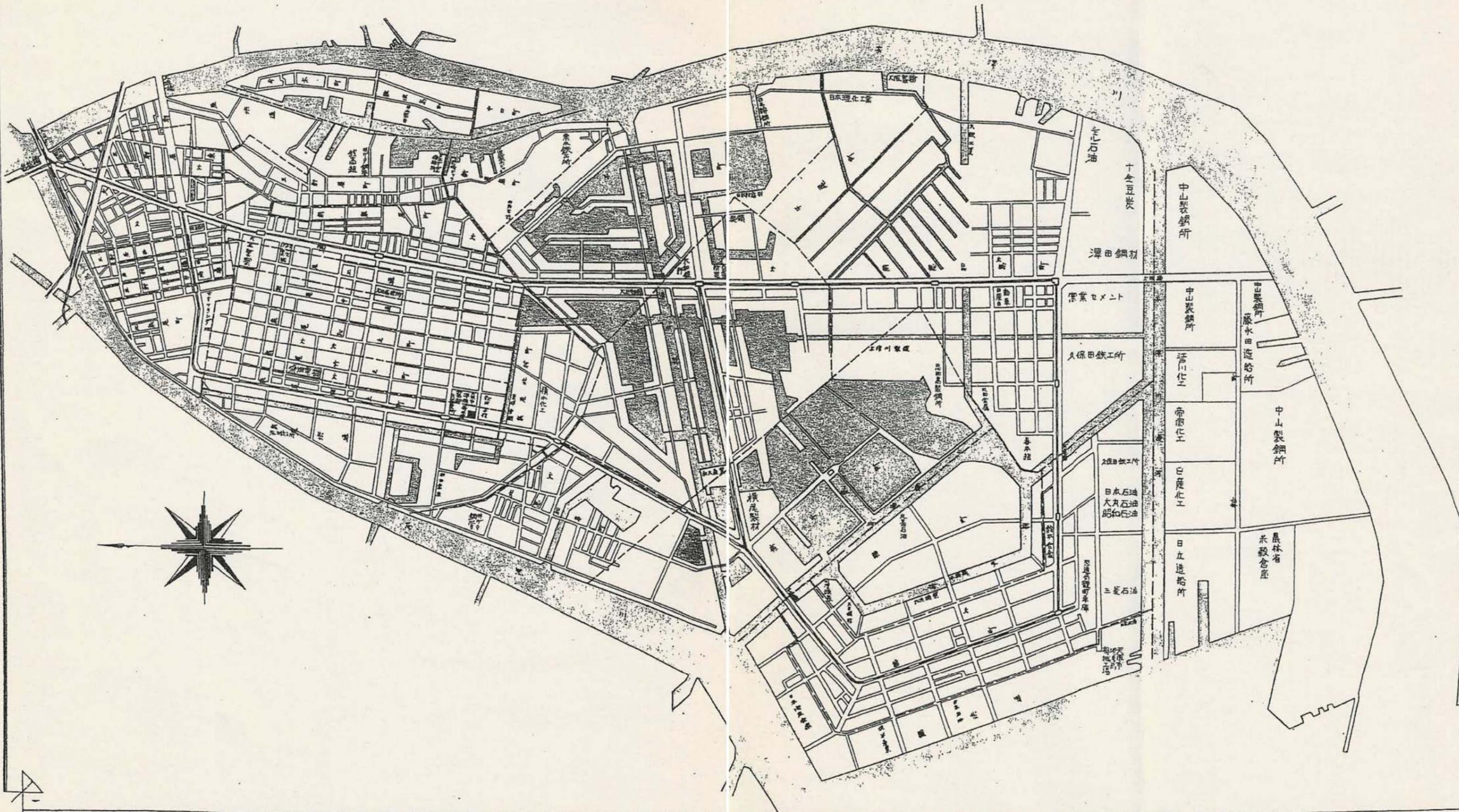
大阪は古くから「水の都」「八百八橋」と言われるほど多くの橋が架かっており、まわりを海と川に囲まれ、運河・掘割りの多かった大正区にも、多くの橋が架かっていました。戦後の土地区画整理事業により、整然としたまちなみを築き上げていくなかで、区内の多くの橋が取り壊され、現在では大正橋をはじめとする大型の橋が現存するのみです。一枚一枚の写真を通して「こんな橋が架かっていたのか」と、現在のまちなみと比較していただいたり、ご存じの方は「おもいで」と兼ねながらご覧ください。*番号が記載されていない橋の写真はありませんのでご了承ください。



大正九年九月九日
千島土地株式会社
岩田三地合名会社

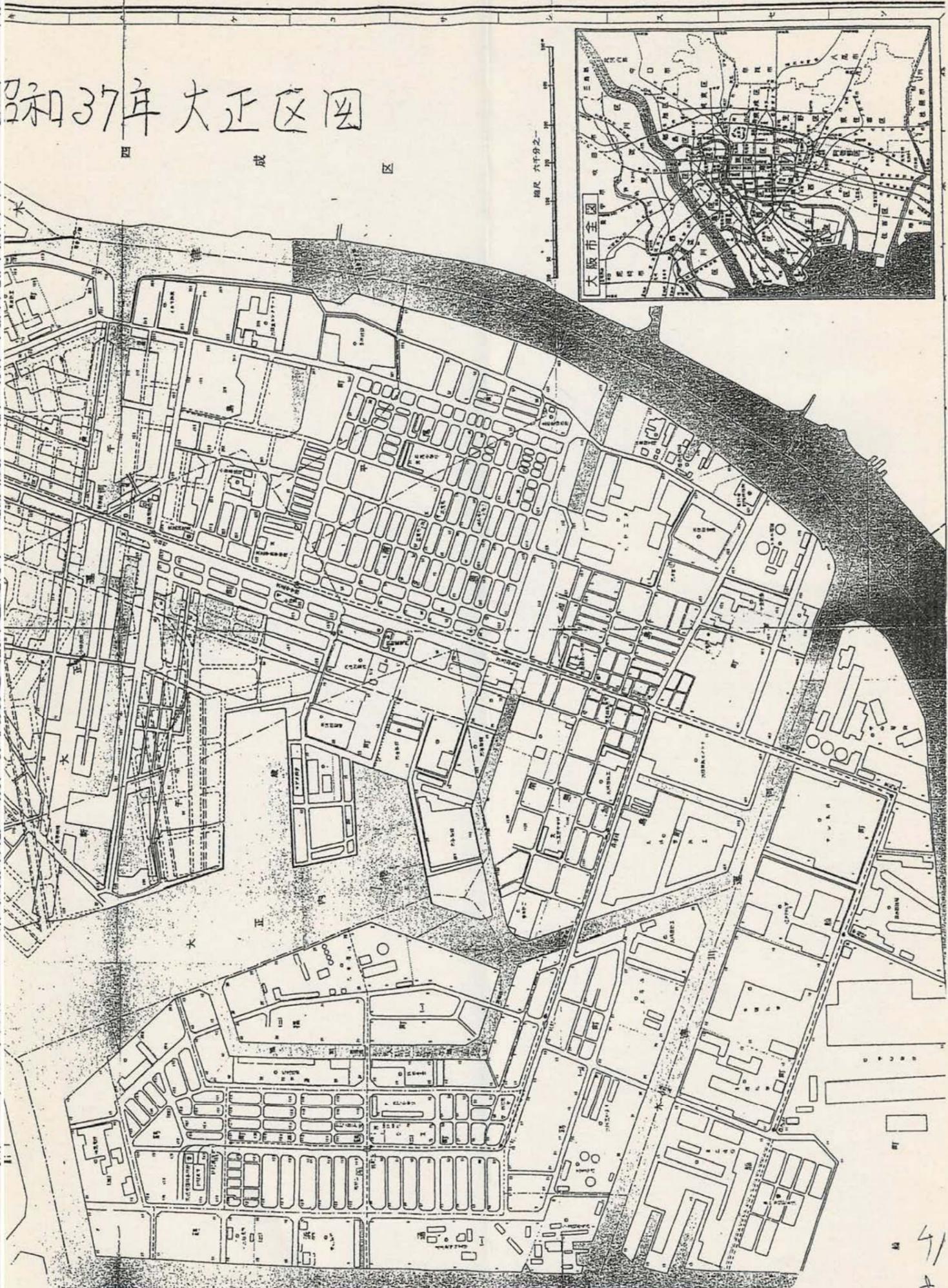
大阪市大正區全圖

昭和28年

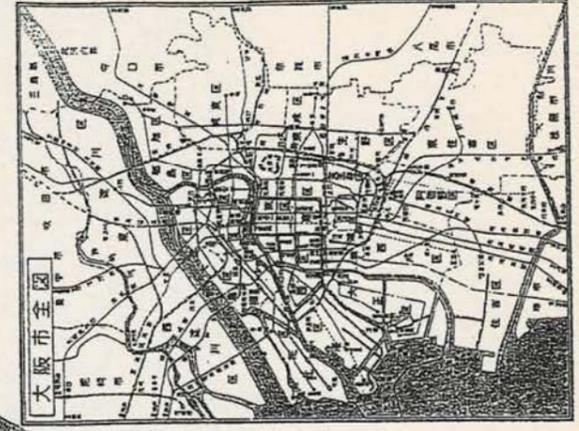




昭和37年大正区图



图尺 六十分之一



港区

大正区

成区

区